

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県

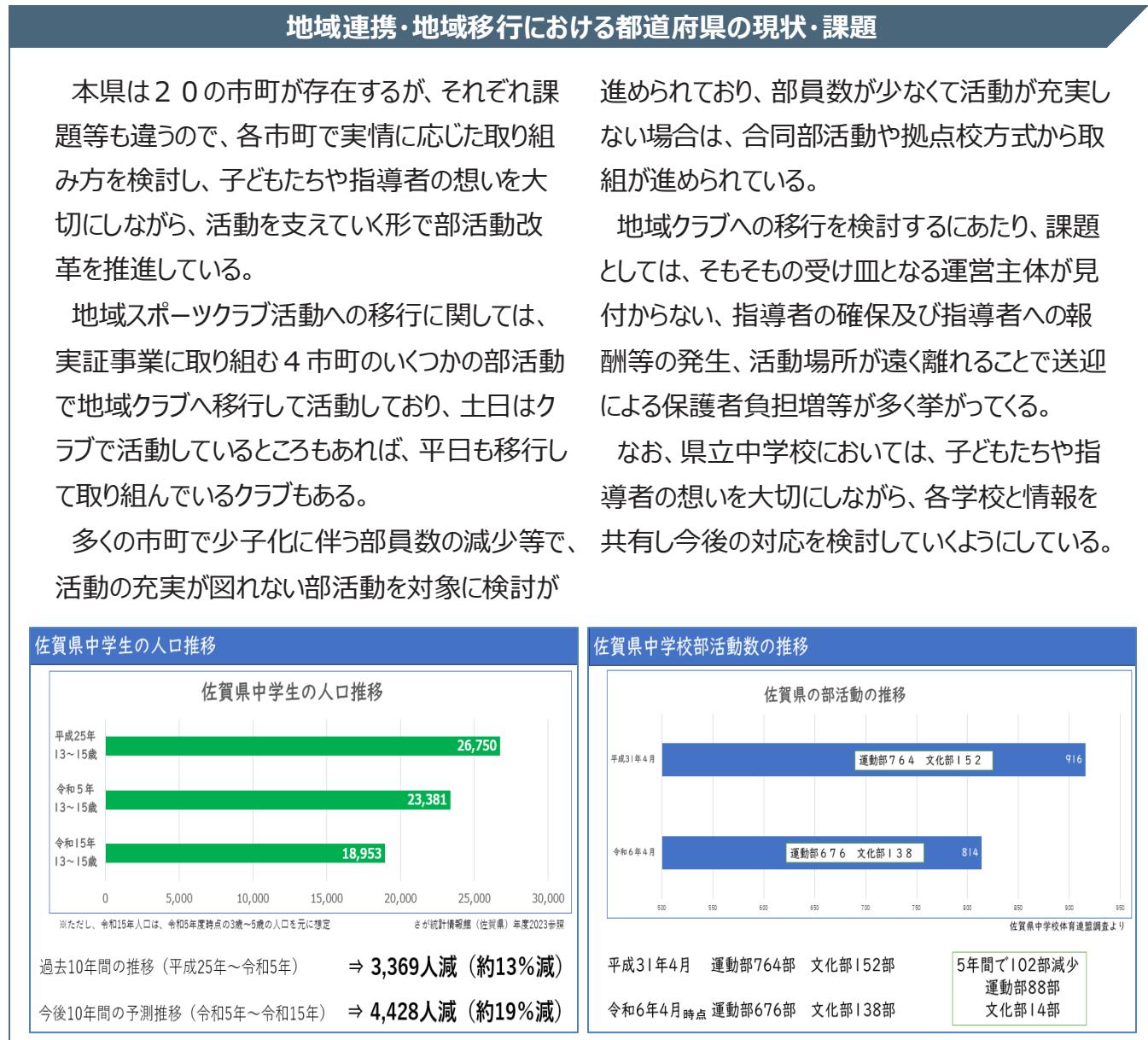
自治体名：佐賀県

担当課名：佐賀県教育委員会事務局保健体育課

電話番号：0952-25-7235

1.自治体の基本情報

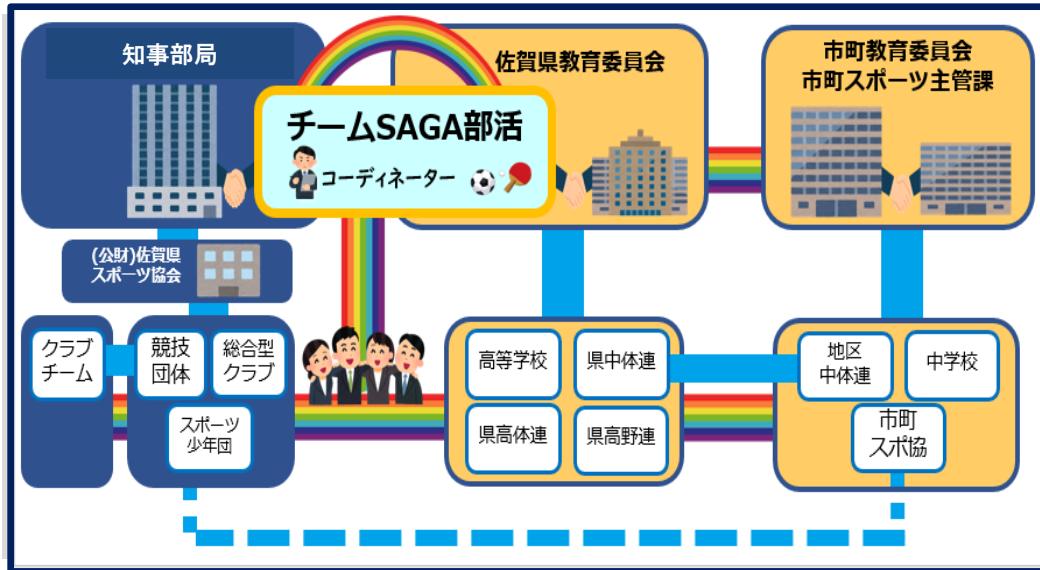
基本情報	
面積	2,440.64 km ²
人口	787,675人
公立中学校数	89 校
公立中学校生徒数	22,142人
部活動数	801部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎チームSAGA部活（教育委員会）

- ・保健体育課…実務担当者会、市町連絡協議会、指導者研修会の開催等
- ・学校教育課…文化部・生徒指導窓口、実務担当者会への参加等
- ・教職員課…教職員の兼職兼業等対応、実務担当者会への参加等

◎チームSAGA部活（知事部局）

- ・県スポーツ課及び県スポーツ協会…競技団体や総合型地域スポーツクラブとの連絡調整や相談窓口、実務担当者会への参加等
- ・まなび課…社会教育情報共有、実務担当者会への参加等

年間の事業スケジュール

令和6年5月	指導者オンデマンド研修
令和6年6月	指導者発掘・確保の事業者と業務委託
令和6年7月	R6年度第1回実務担当者会議、市町連絡協議会の開催
令和6年8月	指導者研修会Ⅰ
令和6年9月	総括コーディネーター市町訪問
令和6年12月	指導者研修会Ⅱ
令和7年1月	R6年度第2回実務担当者会議、市町連絡協議会の開催
令和7年1月	実証事業クラブとの協議
令和7年2月	本年度の振り返り

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



- 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

取組内容

取組事項

- SAGA部活推進統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市町との連絡調整・助言等を行う。
- 関係各課からなる「チームSAGA部活」による人材の確保等の諸課題に取り組み、市町連絡協議会を開催し、県と市町同士の連携を図る。
- 実証事業の各クラブ等と協議しながら現状と課題を把握。

取組の成果

- SAGA部活推進統括コーディネーターを配置したことにより、県内全市町や関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- チームSAGA部活により、教職員の兼職兼業に係る服務等への質問や関係団体からの情報共有がスムーズになり、県内全市町へ情報提供することができた。
 - ・7月24日（水）第3回チームSAGA部活実務担当者会議
 - ・7月30日（火）第3回チームSAGA部活市町連絡協議会
 - ・1月16日（木）第4回チームSAGA部活実務担当者会議
 - ・1月30日（木）第4回チームSAGA部活市町連絡協議会
- ※令和5年度から年2回実施 回数は通算
- 地域クラブにて指導している指導者と、クラブの活動場所において協議し、活動状況を直接把握し、地域クラブ化したメリット等や課題を整理することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【SAGA部活推進統括コーディネーター】

- ・年に2回県内全市町を訪問し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・協議会の調整等を実施し、県と市町及び関係団体との連携を実現

今後の課題と対応方針

- 各市町の課題を常に把握しながら、課題に応じて「チームSAGA部活」のメンバーを拡大。
- チームSAGA部活市町連絡協議会に、市町関係者だけでなく、総合型地域スポーツクラブ等で受け皿となっている担当者等の参加も依頼。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

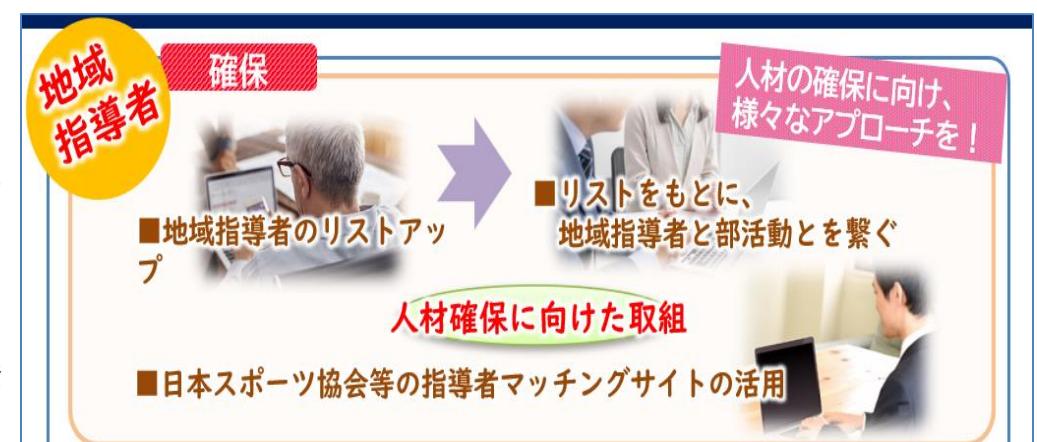
取組事項	人材バンクの人数	人材バンクの年齢構成	種目	資格有無
・県スポーツ協会、県公認スポーツ指導者協議会と連携し、県内公認スポーツ指導者1,600名を対象に指導者への協力を要請。指導者リストを作成し各市町へ送付。	○県公認スポーツ指導者人材バンク（SAGA部活指導者リスト） 76名	○SAGA部活指導者リスト ・80代 2 ・70代 12 ・60代 14 ・50代 26 ・40代 14 ・30代 6 ・20代 2	・陸上 ・バスケ ・バレー ・体操 ・ハンド ・卓球 ・バドミ ・軟式野球 ・剣道 ・ソフトテ ・ソフトボ ・柔道 ・軟式野球 ・相撲 ・カヌー ⁺ ・弓道 ・ラグビー ・山岳 ・トライアスロン ・ホッケー ・セーリング ・ボート ・ボクシング ・レスリング ・文化部（茶道、囲碁）	○SAGA部活指導者リスト ・公認スポーツ指導者資格
・佐賀県退職校長会人材バンク作成に当たり、部活動指導への協力を依頼。退職校長会から各市町へ送付。	○県退職校長会人材バンク 10名	○退職校長会		○退職校長会 ・教員免許状
・県内人材派遣業務の会社へのマッチング等の業務委託や日本スポーツ協会マッチングサイトの紹介	○派遣業者サイト登録数 ・指導者：約52名 ・チーム：約19チーム	・70代 5 ・60代 5		

取組の成果

各市町（高校含む）の問い合わせに対し、指導者リストから高校部活動指導員1名、中学への指導者2名をマッチングすることができた。

県内人材派遣業務の会社へのマッチング等の委託業務により、中学校外部指導者2名をマッチングすることができた。また、地元大学生が立ち上げたベンチャー企業ということもあり、地元との連携に強みがあり、大学生も指導者として中学合同練習会の場にも派遣した。

各市町に人材派遣業者へのチーム登録、指導者登録を勧め、サイトへの登録者も増えている。



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○オンデマンド研修

「SAGA部活安全指導研修動画（ガイドラインの順守、ハラスメントの防止等）」

○参集型

- ・ SAGA部活指導者研修会 I
「発達段階に応じたトレーニング法」「女性アスリート健康問題等」
- ・ SAGA部活指導者研修会 II
「アスリートの栄養学等」

※修了後は、受講証明書を発行し、指導者の自覚を高め、安心して取り組める体制を構築。

受講者の声

- ・女性への指導にあたり特にエネルギーバランスへの配慮とアドバイスが必要と学びました。女性アスリート外来についてもアナウンスしたいと思います。
- ・女性部員がチームの中にもいるが、知識不足により、相談に乗れないこともあった。今日の講義だけではまだまだ足りないと感じたので、教えていただいた専門のサイトなどでさらに知見を深めたい。

研修



指導者研修の参加実績

○オンデマンド研修 期間：5月20日～3月31日
視聴回数：約1000回

○参集型

- ・ SAGA部活指導者研修会 I 8月4日（日）
参加者 約40名
- ・ SAGA部活指導者研修会 II 12月5日（木）
参加者 約170名

※県内中高部活動指導者も対象

今後の課題と対応方針

- 現場の実態の把握や課題に耳を傾け、ニーズに応じた講師の選定及び研修会の内容を選定することが必要。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

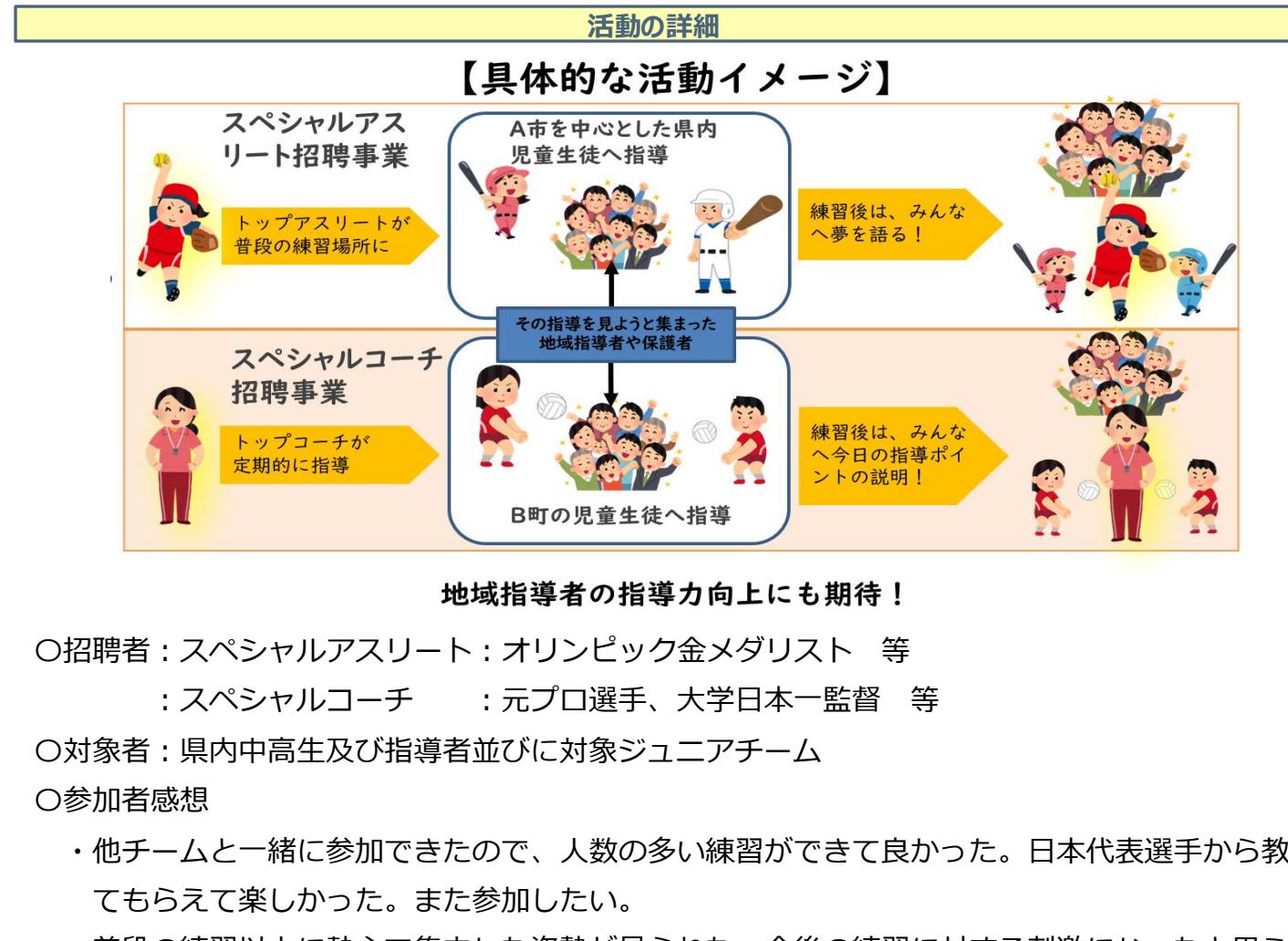
●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○学校と地域の連携を深めた新たな部活動のスタイル「SAGA部活」の体制を整備することにより、生徒及び指導者がより活躍できる場を確保し、スポーツ及び文化芸術の振興を図る。

・子どもたちに夢を与えてくれる「スペシャルアスリート」の招聘（SAGA部活の主役となる「高い志」をもった子供たちの育成）

・確かな指導力を有する「スペシャルコーチ」を県内外から招聘（学校の枠を超えた活動の質を高め、地域連携・地域移行を加速化）



2. 実証内容と成果

- ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組內容

●取組項目名 力：参加費用負担の支援等

取組事項

○地域連携や地域移行に取り組む自治体に対して、子どもたちの活動を支える取組や受益者負担等の発生に対する理解促進を求めて、市町の保護者説明会等にSAGA部活推進総括コーディネーターが参加し、説明することで市町の取組を後押し。

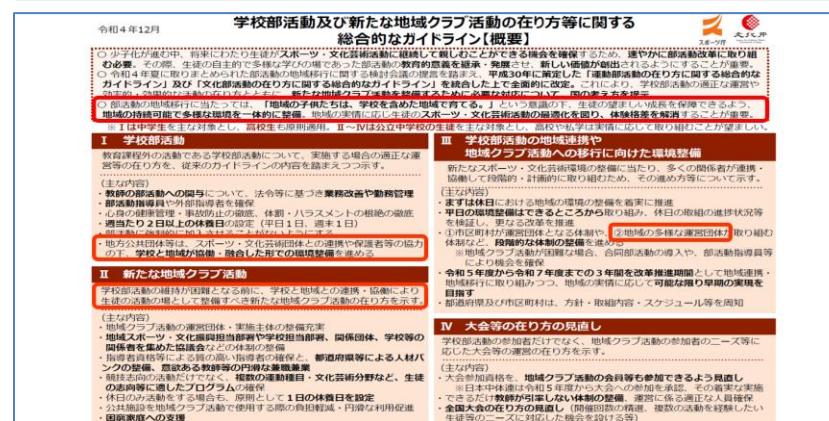
「運動部活動休日地域移行」說明会

学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について (S A G A 部活の推進)



佐賀県教育委員会事務局保健体育課
SAGA部活推進総括コードセンター

年度	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31・令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)
国	総合的 部活動の あり方 に関する ガイドライン	3月 総合的 部活動の あり方 に関する ガイドライン	12月 総合的 部活動の あり方 に関する ガイドライン	3月 学校の 運営の徹底について に関する 通知	10月 運動部活動の 地域移行に関する 検討会議設置(計5回) 4月 運動部活動の 地域移行に関する 検討会議設置(計7回)	12月 活動部の 新設や 統合による 総合的な 部活動の あり方 に関する ガイドライン(※集中化推進)	6月 運動部活動の 地域移行に関する 検討会議設置(計5回) 2月 運動部活動の 地域移行に関する 検討会議設置(計5回)	8月 活動部の 地域移行に関する 検討会議設置(計5回)
佐賀県	8月 運動部活動の あり方に関する方針	10月 文化部活動の あり方に関する方針			7月 SAGABUKATSUライブプロジェクト 委員会設置(計5回)	3月 SAGA部活 提案書完成 4月 「SAGA部活」提案書市町教委 説明会 5月 市町連絡協議会 実務担当者会議 6月 市町連絡協議会 実務担当者会議 7月 市町連絡協議会 実務担当者会議 8月 市町連絡協議会 実務担当者会議	7月 市町連絡協議会 実務担当者会議 8月 市町連絡協議会 実務担当者会議	7月 市町連絡協議会 実務担当者会議 8月 市町連絡協議会 実務担当者会議



2. 実証内容と成果

総括・成果の評価・今後に向けて

● 総括・成果の評価

関係団体との連携等

【成果等】

- ・市町連絡協議会を通して、県、市町及び学校や地域の枠を越えて、佐賀県全部で子どもたちを支えていく連携を構築した。
- ・SAGA部活推進総括コーディネーターを派遣し、各市町や関係団体との課題等を共有することで、改善策を素早く検討することができた。

人材確保・資質向上等

【成果等】

- ・指導者研修会：オンデマンド研修や収集型の研修を実施することで、理解が深まり、指導者の意識が向上。
- ・指導者確保に向けた動き：県スポ協と退職校長会との連携及び人材確保を業務委託し、アプリ上で指導者を発掘し、マッチングも実施し成立。

内容の充実等

【成果等】

- ・スペシャルソーターがよかったですと回答した児童生徒91.5%、児童生徒にとって、本事業は効果があると回答した指導者96%
- ・合同部活動等の取組に向けてのきっかけとなった。

実証事業

【成果等】

佐賀市：実証事業を通して、佐賀市では部活コーディネーターを設置し、一市で18中学校を抱える現状に対応しており、NPO法人との連携。

多久市：既存の総合型地域スポーツクラブ「多久スポーツピア」の活用や保護者会運営によるクラブチームへの移行を展開

基山町：軟式野球の土日地域クラブ移行への展開を進め、OBを活用した指導体制を構築。

白石町：R6から陸上部は白石アスリートクラブとして完全に地域クラブへ移行。

SAGA部活市町連絡協議会で、実践発表を行ったことで、他市町の参考モデルとなり、今後の各市町の部活動改革を後押しする機会を構築。

● 今後に向けて

実情に応じた取組が広がったり、自走に向けた体制がほぼ固まってきたりする市町がある一方で、指導者や受け皿となる運営主体が見付からない、送迎等の発生に対する保護者の理解が得られないなどの理由で、部活動改革の方向性がきちんと定まっていない市町もあり進捗状況に差が出てきている。令和6年度までの成果と課題を基に令和7年度から令和9年度までの3年間を第Ⅱ期SAGA部活推進期間と位置づけ、引き続き県と市町が連携し、支援を行っていく。

2. 実証内容と成果

アンケート結果・広報資料

取組事項

- 全国大会等で優秀な成績を収めた学校部活動及びクラブ活動に所属する生徒と指導者が、報告会を実施。
- リーフレット（R5）やクラブガイドブック（R4）を作成し、県内小中学校の児童生徒・保護者に配布。現在も活用中

認知度向上

成績報告会 等

SAGA部活 ONGOING 進行中!
未来のために、今できることを！

広報媒体等でのPR

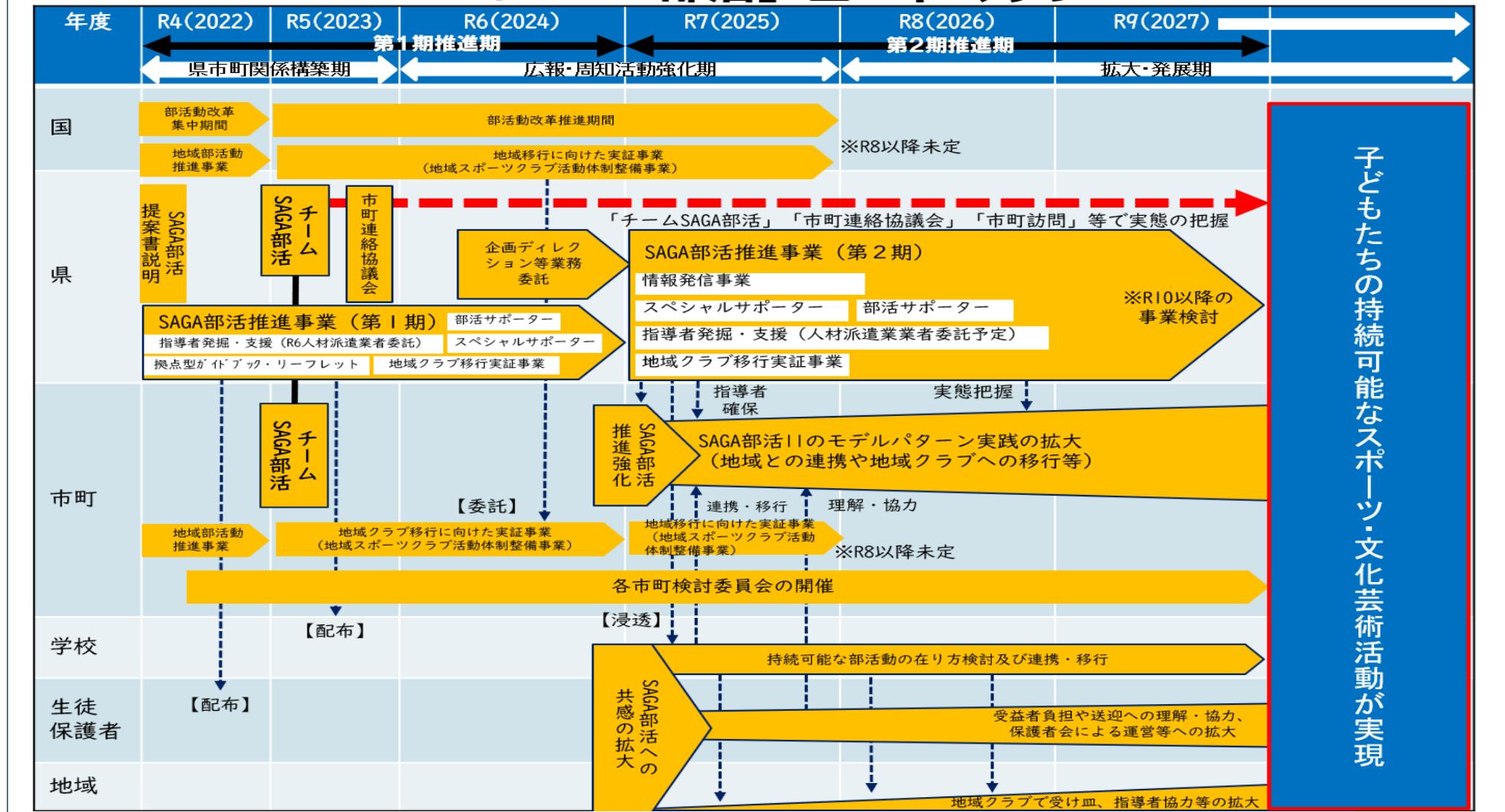
The first panel shows a group photo of students and staff at a performance or competition, with a yellow circle overlay containing the text "認知度向上" (Awareness Improvement). The second panel is a promotional poster for "SAGA部活 ONGOING" featuring a soccer team. The third panel is a thumbnail of a PR material titled "広報媒体等でのPR" showing a grid of icons representing various sports.



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

「SAGA部活」ロードマップ^o



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県 佐賀市

自治体名：佐賀県 佐賀市

担当課名：教育委員会教育総務課

電話番号：0952-40-7352

1.自治体の基本情報

基本情報	
面積	431.81 km ²
人口	226,505 人
公立中学校数	18 校
公立中学校生徒数	5,555 人
部活動数	183 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて 準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

佐賀市では、少子化に伴い、子どもたちの選択肢や部員数の減少、指導者不足といった課題が顕著になっている。競技によっては、合同チームが増加しており、軟式野球、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、卓球で単独校として大会に出場できない学校もある。

改革推進にあたり、昨年実施した中学生へのアンケートを通して以下の実態が明らかとなった。

- ・「運動部 + 学外の習い事」で平均782h/年の活動（総授業時間：850h/年）
- ・睡眠時間が6時間以下の生徒が約30%
- ・半数以上の生徒が「友人や家族と過ごしたい」「趣味の時間が欲しい」と回答

【3】適切な活動量とは／実態調査(全国と佐賀)

■ 部活動の日数・時間数の平均

佐賀市	運動部		文化部	
	平日	休日	平日	休日
日数	4.2日/週	1.2日/週	4.3日/週	0.9日/週
時間	2h13min/日	2h36min/日	1h59min/日	2h18min/日
総時間数	545h/年		482h/年	

全国	運動部		文化部	
	平日	休日	平日	休日
日数	4.0日/週	1.1日/週	3.5日/週	0.6日/週
時間	1h58min/日	2h40min/日	1h48min/日	1h37min/日
総時間数	486h/年		333h/年	

出典:佐賀市中学生アンケート結果より (R5.9月実施) <https://www.city.saga.lg.jp/main/102838.html>

・活動内容を「全く自分たちで決めていない」生徒20%のうち、約90%が主体的に取組みたいと回答

本市の中学生の実態をもとに以下の3つの方向性を設定し、具体化に向けて取り組んでいる。

- ①学校部活動の適正化
- ②地域型クラブの立ち上げ支援
- ③多様な選択肢の確保

一方で、市内の中学生を受け入れる体制整備には時間を要することも見えてきた。

市の事業として、持続可能で健全な活動の場を用意するため、現状の部活動との並走期間の中で、関係者が混乱なく活動に参画できる計画を策定していくことが重要と考えている。

子どもたちの部活動における主体性に関する質問

■Q:練習時間や内容、試合のメンバーなど、部活動において「自分たちで決めていい」と思いますか?

■A:是れぞれの部活動において、自分たちで決めていいと思う割合

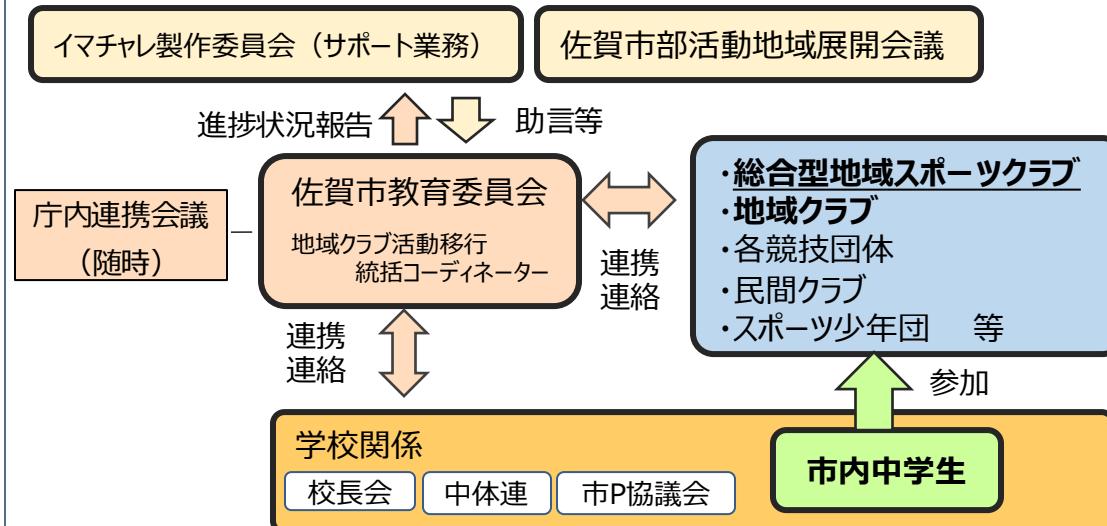
練習時間について
自分たちで全く決めていい子ども
3973人 (全体で約22.3%) が今は
91.6%
72.4%以上の子どもたちが
より主体的に取り組みたい
と考えている

4

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

(教育総務課) 地域展開事業の企画・調整

(学校教育課) 部活動ガイドライン／教職員の兼職兼業の扱い

(学事課) 部活動指導員制度・外部指導者制度／保険制度／中体連

(社会教育課) 中学生の健全育成の場の創出・提供

◎首長部局

(スポーツ振興課) 施設利用調整／指導者講習補助／
総合型地域スポーツクラブ設立支援

市小中学生各種スポーツ大会等出場激励金

(歴史・文化課) 文化芸術活動イベントの企画・広報

(企画・政策課) 他施策との総合調整

年間の事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対象校、対象クラブ打合せ	●		→									
指導者確保・研修		●	→									
委託事業者契約				●								
保護者説明・加入手続き		●	→									
地域クラブ活動実証				●	→							
アンケート調査の実施								●				
地域展開会議開催									●			●

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A : 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） B : 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）	1 クラブ（1部活） なし	
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数(他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
佐賀大学ベースボールクラブ	総合型地域スポーツクラブ	軟式野球(新)	月 15 回 週 4 回 (平均)	平日 17:30～19:30 休日 9:00～12:00	1年 13人 2年 13人	7月～1月	佐賀大学グラウンド	5 人	1 人	月会費 4,000 円	地域クラブ

（注）令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業で実施分のみ記載

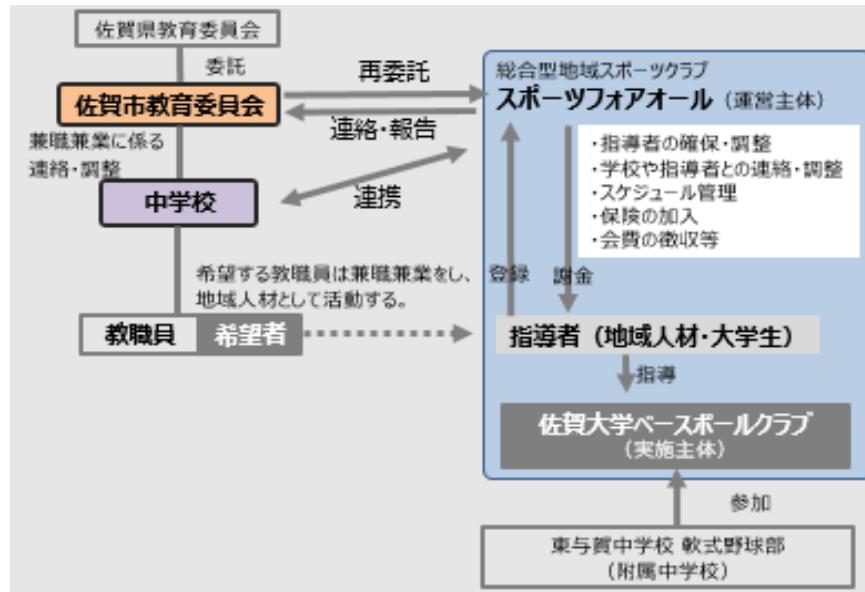
2. 実証内容と成果

● 佐賀大学ベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	特定非営利活動法人 スポーツフォアオール
期間と日数	7月1日～1月29日 週3～4回程度
指導者の主な属性	大学教授、兼職兼業教員、大学生 元中学校外部指導者、小学校教員
活動場所	佐賀大学グラウンド
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	48,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

主な取組例

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 運営責任者 1名

役割：指導者の確保・調整、活動場所の確保・調整、財務管理、事務手続き 等

● 指導者（主） 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

● 指導者（副） 4名（うち1名は運営責任者）

役割：活動において、指導者（主）の補助として、指導を行う

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ① 教育総務課に地域クラブ活動移行統括コーディネーターを1名配置し、学校・関係団体・佐賀県等との連絡調整・指導助言等を行う。
- ② 運営団体・実施主体との連絡調整や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- ③ 参加者管理、参加者・指導者への連絡等にICTを活用。

取組の成果

- ①-1 地域クラブ活動移行コーディネーターを教育総務課に配置したことにより、学校をはじめ、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- ①-2 庁内他部局との連携を図り、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の代表者等を対象とした研修会で本市の取組方針や進捗状況を共有することができた。
- ② 年度途中に部活動から移行することに伴い、市と運営主体で打ち合わせを重ね、運営主体を中心に保護者説明会を実施し、新たな運営体制について共有を図ったうえで、地域クラブへ移行することができた。
- ③ 実施主体（地域クラブ）において、ICT（アプリ）を活用し、指導者から保護者・生徒への連絡やチーム間の振り返りを共有する等、学校部活ではない部分のデメリットを補うことができた。



中学校の新入生説明会でコーディネーターが説明



コーディネーターによる研修会（校長会）

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・2か月ごとに各学校を巡回し、課題等のヒアリング、進捗状況の共有
- ・中学校だけでなく、小学校長会とも連携し、方針、進捗状況の周知
- ・地域展開会議の調整等の他、関係団体との連携
- ・中学生対象のワークショップを5回開催（子どもたちの意見を尊重）
- ・中学校教職員対象の研修会を実施

今後の課題と対応方針

- 校長会等と連携しながら、部活動ガイドラインの改訂を目指す。
- 民間クラブと地域クラブの明確な差異を示す基準がないため、今後、国や都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定していく必要があると考える。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○全体会を2回開催（11月・3月）

○学識経験者・PTA・校長会・中体連・スポーツ協会・スポーツ少年団・吹奏楽連盟・民間クラブ等10名の委員で構成。

アドバイザーとして、イマチャレ製作委員会の代田昭久氏、オブザーバーとして佐賀県教育委員会保健体育課を加え、実証事業から洗い出された課題や好事例、今後の地域展開に必要とされる制度や仕組みについて協議を行った。



(1) - (2) 令和6年度の佐賀市の取組について 資料3
方略②「地域型クラブ」の立ち上げ・運営に対する支援 地域クラブ活動拡張モデル

総合型地域スポーツクラブ（受け入れ施設）
高令銀行パターン（平日・休日）
対象：高令銀行や学校実習担当者
受け渡し：JR佐賀駅、スクール・オフィス
指導者：佐賀大学教員／教職員／学生
場所：佐賀大学グラウンド
会員登録料：6ヶ月
会員登録料：2ヶ月～
会員登録料：1ヶ月
会員登録料：1ヶ月

地域クラブ（新規→既存法人）
並行パターン
対象：高令銀行や学校実習担当者
受け渡し：JR佐賀駅
指導者：地域クラブ運営者／教職員／学生
場所：JR佐賀駅
会員登録料：1ヶ月
会員登録料：1ヶ月

出典:会議資料 (R6.11月実施) <https://www.city.saga.lg.jp/main.php/103662.html>

(2) - (2) 地域の受け皿拡充のためにできること 資料3
部活動改革に伴う学習指導要領統合の廃止【抜粋】
学習指導要領の評議所に関する記載の新設【抜粋】
改訂VCEが改訂が「リラインバウンド」されて、地域クラブ活動が運営する「校外活動」や教科的意義等を明確化した上で、ふたつの用語を記載
① 地校は地域クラブとの連携での活動力向上のため指導者会議を開き
なされ、平日に体調で体調が悪くなる場合、連絡の一つ苦労を隠す場合から問題に連携して対応を行って、ミスルート化して問題を生じる課題に取り組む
■ 地域クラブ活動の定義・要件等について
（民営のクラブチーム等との区別の明確化や隣の担保等）
■ 平日の活動時間について（指導者確保の観点から）
■ 地域クラブの大変な大会参加要件について
■ 受益者負担への理解について
■ 指導者・クラブの権限責任について

取組の成果

○委員から、所属する構成団体に対し、市の地域展開の方向性、ねらい、取組について説明・情報発信
・大学の部活・サークル、スポーツ少年団研修会、競技団体研修会、吹奏楽連盟研修会

市中学校長会、市中体連理事・専門委員長研修会、市PTA協議会研修会、県主催研修会 等

○スポーツ庁実証事業及び本市独自事業に、構成委員が当事者として協力

・スポーツ庁実証事業、本市独自事業の地域クラブ活動運営団体（学識経験者・市PTA協議会）

・本市独自事業に係る指導者派遣（民間クラブ）

今後の課題と対応方針

○競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

△：関係団体・分野との連携強化

工：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

力：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組內容

●取組項目名 例) 工: 面的・広域的な取組 / ク: その他の取組 平日の移行

取組事項（工）（指導者の属性や配置の工夫）

○指導者の確保

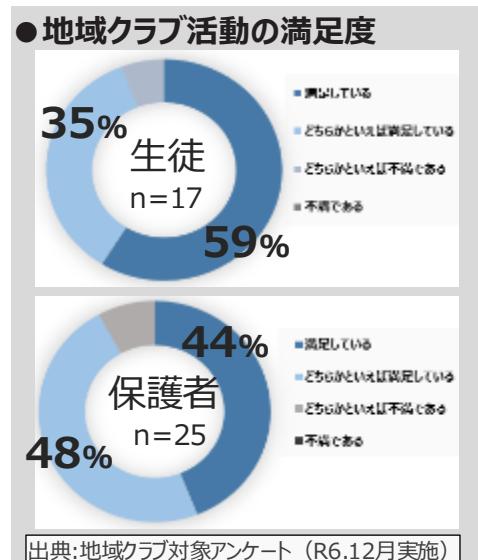
- ・佐賀市外に異動した教員が、所属町教委に兼職兼業申請し、地域クラブ指導者（主）として指導従事
 - ・運営団体代表者が属する佐賀大学の学生、OBが指導従事

取組の成果（工）

○生徒・保護者ともに地域クラブ活動への移行に対して、肯定的に受け止めている割合が高い。

○指導者に対する声として以下の
声があがつた。

- ・個人・チーム状況に応じた技術指導をしてもらえる
 - ・技術以外（礼儀作法等）を指導してもらえる
 - ・主体性を尊重してもらえる



取組事項（ク）（一貫指導に関する部活動顧問との連携事例）

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、
地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施。

取組の成果（ク）

- 平日2日、休日1日（大会等があれば2日）で実施。平日の活動日数に対して、肯定的に受け止めている割合が多い。

- 平日の活動時間を17時（17時30分）から19時（19時30分）としていることで、学校が終わって余裕をもって移動することができた。

- 連絡アプリを活用し、活動内容等の共有を行った。



出典:地域クラブ対象アンケート(B6.12月実施)

出典・保護者会資料（一部抜粋）

今後の課題と対応方針

- 従来の学校部活が担ってきた大会等の運営、学校教育への補完的活動、保護者対応などすべてに対応することは受け入れ側にも過剰な負担となり、持続可能ではない。従来の部活動観からモデルチェンジする関係者の意識転換が必要となる。
 - 平日の活動も考えると、指導者確保の観点から従来の部活動と同時間帯で開始は困難。→活動時間帯の検討
 - 地域移行に伴うユニフォーム新調の金銭的負担の声は保護者からもあがる。→地域クラブの大会参加規定緩和やニーズに合わせた大会設定の必要性

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項		活動の詳細																							
<p>○佐賀市では、地域展開への前段階として、<u>現状の部活動の質と量の適正化</u>を図る「佐賀モデル」に取組み、より主体的に、適切な時間で活動する形への転換を図っている。</p> <p>○地域展開後の地域クラブにおいても、「主体性」を育むことを第一義とし、本クラブから佐賀県内の中学校軟式野球部に声をかけ、主体性を持って野球に取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的とした新たな事業に取組んだ。</p> <p>○普段の練習や試合では体験できない規定やルールを適用し、それぞれの選手がチーム内で主体的な活動をするように促した。</p>		<table border="1"> <tr> <td>参加人数</td><td>190 人</td><td>指導者数</td><td>18 人</td></tr> <tr> <td>属性</td><td colspan="3">佐賀市軟式野球育成リーグ</td></tr> <tr> <td>具体的な内容</td><td colspan="3"> <p>選手たちが野球に主体的に取り組み、自ら考えてプレーすることで野球本来の楽しさを体験してもらうことを目的とした大会である。以下に示す特別ルールに準ることにより、選手の主体性が引き出され、選手自ら考えてそれぞれがチームを導いて行こうとする態度を育てることができる。</p> <p>○県内13チーム参加 ○2会場で2日間開催</p> <p>《特別ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督はサインや指示を一切出さない ・ポジション等は選手同士で決める ・全員が出場する ・選手は複数のポジションを守る ・一回で3点入ったらチエンジとする ・2,5回はノーアウト1,2塁からスタートする </td></tr> <tr> <td>子供の声</td><td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなチームと戦えてよかったです ● すべての試合に出ることができて楽しかった ● 自分たちで作戦を考えることはおもしろかったです ● 野球のおもしろさがわかった ● 普段しないポジションを守って緊張しました ● ピッチャーが経験できてよかったです </td></tr> <tr> <td>関係者の声</td><td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ● 選手がいきいきとしていた ● 自分たちで率先してやっていた ● 普段よりよく声をだしていたようである ● またぜひ開催してほしい </td><td>  </td></tr> </table>			参加人数	190 人	指導者数	18 人	属性	佐賀市軟式野球育成リーグ			具体的な内容	<p>選手たちが野球に主体的に取り組み、自ら考えてプレーすることで野球本来の楽しさを体験してもらうことを目的とした大会である。以下に示す特別ルールに準ることにより、選手の主体性が引き出され、選手自ら考えてそれぞれがチームを導いて行こうとする態度を育てることができる。</p> <p>○県内13チーム参加 ○2会場で2日間開催</p> <p>《特別ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督はサインや指示を一切出さない ・ポジション等は選手同士で決める ・全員が出場する ・選手は複数のポジションを守る ・一回で3点入ったらチエンジとする ・2,5回はノーアウト1,2塁からスタートする 			子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなチームと戦えてよかったです ● すべての試合に出ることができて楽しかった ● 自分たちで作戦を考えることはおもしろかったです ● 野球のおもしろさがわかった ● 普段しないポジションを守って緊張しました ● ピッチャーが経験できてよかったです 			関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 選手がいきいきとしていた ● 自分たちで率先してやっていた ● 普段よりよく声をだしていたようである ● またぜひ開催してほしい 			
参加人数	190 人	指導者数	18 人																						
属性	佐賀市軟式野球育成リーグ																								
具体的な内容	<p>選手たちが野球に主体的に取り組み、自ら考えてプレーすることで野球本来の楽しさを体験してもらうことを目的とした大会である。以下に示す特別ルールに準ることにより、選手の主体性が引き出され、選手自ら考えてそれぞれがチームを導いて行こうとする態度を育てることができる。</p> <p>○県内13チーム参加 ○2会場で2日間開催</p> <p>《特別ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督はサインや指示を一切出さない ・ポジション等は選手同士で決める ・全員が出場する ・選手は複数のポジションを守る ・一回で3点入ったらチエンジとする ・2,5回はノーアウト1,2塁からスタートする 																								
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなチームと戦えてよかったです ● すべての試合に出ることができて楽しかった ● 自分たちで作戦を考えることはおもしろかったです ● 野球のおもしろさがわかった ● 普段しないポジションを守って緊張しました ● ピッチャーが経験できてよかったです 																								
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 選手がいきいきとしていた ● 自分たちで率先してやっていた ● 普段よりよく声をだしていたようである ● またぜひ開催してほしい 																								

2. 実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

● 総括・成果の評価

01 地域クラブ運営体制の整備

- 総合型地域スポーツクラブに運営主体及び実施主体として生徒のニーズに沿ったスポーツ活動の場を創出いただき、生徒・保護者とも満足度が高かつた。

02 指導者の質と量の確保

- スポーツ科学専門の大学教授に加え、市外転出した教員（公認指導者）が兼職兼業で指導に入り、「質」の向上に。
- 教授のゼミに所属している体育学生や卒業後、小学校で勤務しているOBもサポートに入り、「量」の確保に。

03 理解促進に向けた効果的な広報

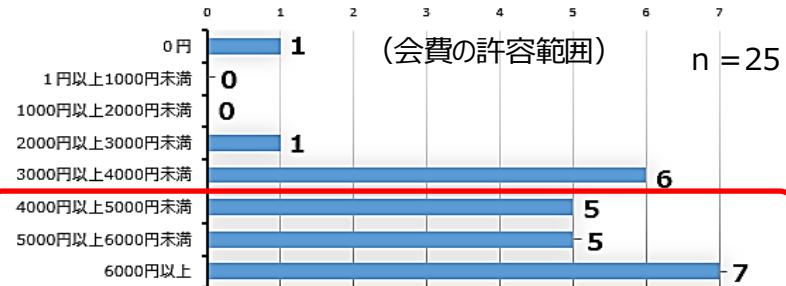
- 地域展開だよりやパンフレットを作成・配布したことにより、佐賀市が目指す地域展開の周知に隨時活用。
- 保護者も生徒も勝敗以外の新しい価値にシフトしている。

Q【保護者】どんな大会があつたら参加したいか？（複数回答）



04 財源の確保

- 合同チームから1つの地域クラブに移行することに伴うユニフォーム等の新規購入（貸与）に国庫を活用し、保護者負担軽減。
- 受益者負担への保護者理解促進。（4,000円以上が約7割）



● 今後に向けて（今年度の成果と課題から）

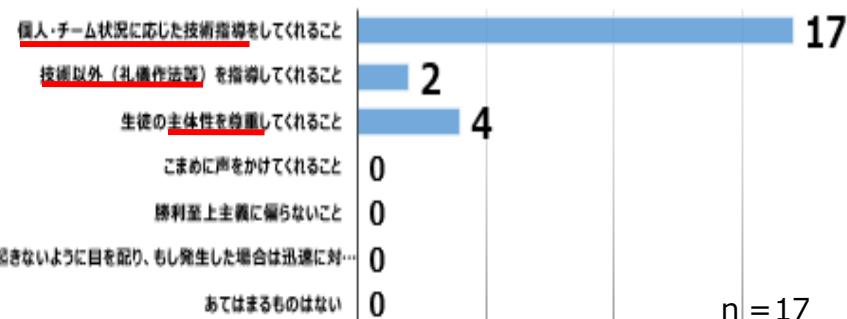
- 佐賀市では、地域移行はあくまでも「手段」として捉え、改革を推進する。この改革の目的は、子どもたちはもちろん、関係するすべての人にとっても持続可能で、多様性に富んだ文化・スポーツ環境を創っていくこと。
- そのために、まずは学校部活動の質と量の適正化を通して、意識改革を図る。
- あわせて、民間クラブと地域クラブの差異を明確にし、公的支援内容を精査する。
- 引き続き、実証事業を通して、地域クラブが自走できる制度設計を進める。
 - ・「指導者」→人材のネットワーク化で指導者の時間的な負担の分散を図る。
 - ・「運営主体」→多様な運営主体を確保する。
 - ・「財源」→多様な財源確保策を検討（企業協賛、企業版ふるさと納税等）

2. 実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.【生徒】現在の地域クラブの指導者で満足していることは何ですか？（複数回答）

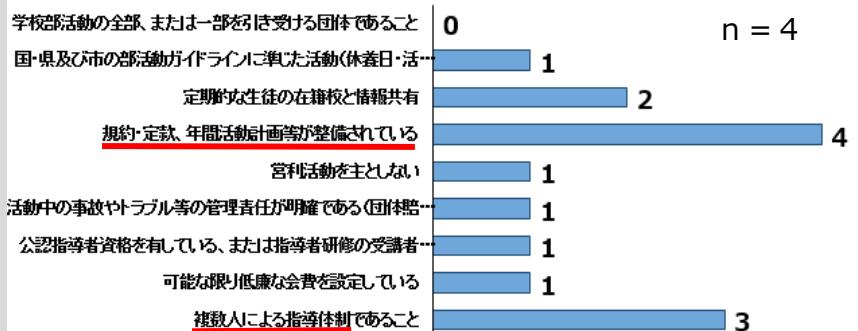


Q.【保護者】学校部活動と比較して、お子様が参加する地域クラブ活動について、満足していることをすべて回答してください。（複数回答）

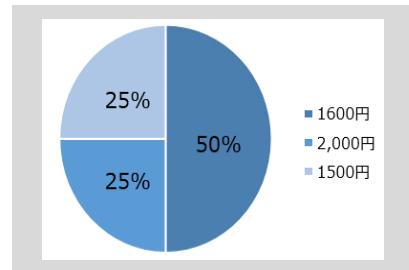


●市●●●●アンケート（実施期間：令和6年●月～●月）の結果抜粋

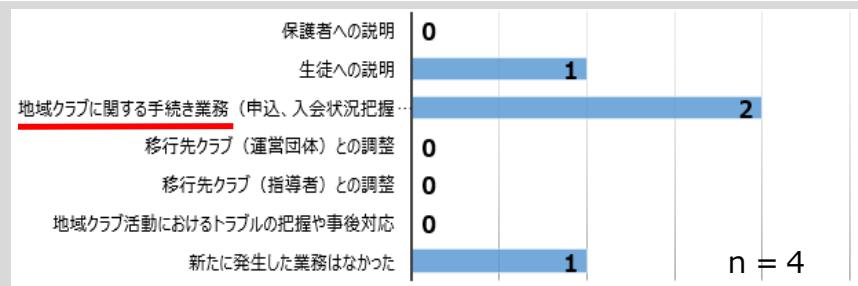
Q.【指導者】民間クラブとの差異を明確にするため、地域クラブ活動の要件として必要だと考える項目を教えてください。



Q.【指導者】指導者謝金として妥当だと感じる時給は？ n = 4



Q.【顧問】地域クラブ活動への移行に伴って、新たに発生した業務は？（複数回答）



2. 実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

○学校部活動の受け皿であること、活動日数や会費等に対する周知をはかるために作成。校区内の小学生（少年野球）にも配布。

佐賀大学ベースボールクラブ（佐大BC）

このクラブは、今後の学校部活動の受け皿として佐賀市教育委員会と連携して取り組むモデルチームです。全選手の育成・強化を中心活動を行い、中体連等の大会にも出場しています。
選年を通して活動できる大学のグラウンドを活用し、スポーツ運動学専門の大学教員や教育を志す大学生、公認指導者資格を持った中学軟式野球指導者執務者が丁寧に指導します。



●活動日 平日（月～水）17:00～19:30
休日（土・日）9:00～12:30（シーズン中は試合が入る場合があります）
●会場 佐賀大学グラウンド（佐賀市本庄町本庄）
●指導者 [名前] 監督：[名前]（中学教諭）、
佐賀県公認コーチ、大学生
●会費 入会金 5,000円、月会費 4,000円、保険料800円/年
別途会員登録料や会員登録料なども発生する場合があります。
●申込 お問い合わせいただき、いつでも練習見学、または練習参加可能です。

お問い合わせ

Q 初心者や女子生徒でも参加可能ですか？

A 大歓迎です。小学校で少年野球に入っているなくても参加できます。また女子生徒も所属しています。参加者全員が野球を楽しめるクラブになります。

**Q 全国大会を目指して活動したいです。
活動日数を増やせませんか？**

A 佐大BCの基本の活動日数は週3日ですが、大会シーズンは平日・休日を両日活動することもあります。適切な時期に適切な量の活動を計画し、短時間で効率的な活動ができるように工夫します。

Q どのような人が指導者になるのですか？

A 大学教員、地域指導者（指導を希望する教員を含む）、大学生です。指導者には、佐賀県教育委員会が実施する研修を受講してもらいます。

Q 地域クラブでも大会に出場できますか？

A 地域クラブが出場できる大会は複数あります。また、中体連の大会にも、令和5年度から地域クラブも出場できるようになっています。

【生徒への参加啓発チラシ】

出典:佐賀大学ベースボールクラブより

○佐賀市部活動地域展開会議アドバイザーの監修を受け、部活動地域展開の全体像をまとめたちらしを作成。



佐賀市の学校部活動が変わっていきます！
佐賀市の部活動地域展開

生徒が「より主体的に」
適切な時間で活動する
新たな「ブツ」に

佐賀市部活動地域展開スケジュール

5月 新入生加入、全日本少年軟式野球県予選（ルース入旗）
佐賀市長旗
6月
7月 佐賀市中体連
佐賀県中体連
8月 全国中体連（全国大会）
全日本少年軟式野球大会（全国大会）
全日本少年春季軟式野球大会（中部地区予選）
9月
10月 全日本少年春季軟式野球大会（県予選）
佐賀市中体連新人大会
11月 ドリーム旗
新入生体験会（随時）
1月 新入生体験会（随時）
2月 新入生体験会（入会受付開始）
3月 全日本少年春季軟式野球大会（全国大会）
佐大BC

佐賀市部活動地域展開とは？

佐賀市の部活動地域展開における3つのポイント

- ① 学校部活動の活性化
- ② 地域クラブの立ち上げ支援
- ③ 多様な選択肢の確保

佐賀市部活動地域展開について

佐賀市は、多様な部活動を実現するため、部活動の運営体制を見直すことを目的とした「部活動地域展開」を行っています。この取り組みにより、各家庭が「できる範囲」でクラブ活動のサポートや試合会場への送迎、信頼などの協力をお願いしています。

【佐賀市部活動地域展開パンフレット】出典:佐賀市ホームページ



2. 実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【理学療法士によるトレーニング指導】



【中学校部活動との合同練習会】



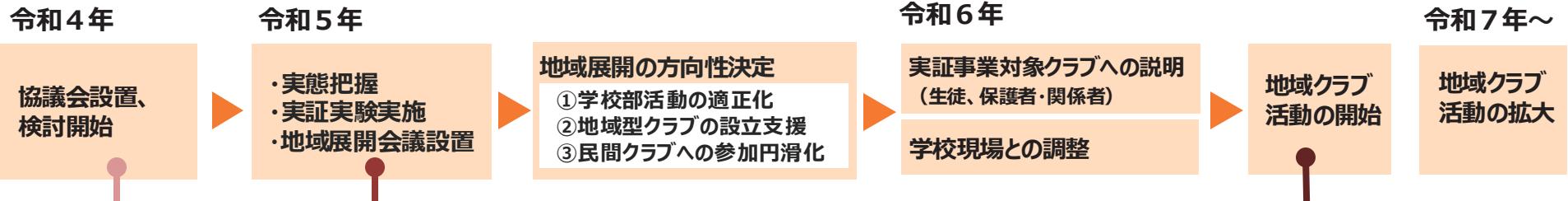
【地域クラブとして大会に参加】



【選手主体のミーティング】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、市長部局、市教委、中体連

経過

「部活動在り方検討委員会（～令和3年）」から「休日部活動の地域移行に関する検討委員会」と呼称を変え、年3回開催。

実施内容

- ・令和8年度までの見通し（令和5年度の実証事業参加について）
- ・教職員等アンケート・拠点校方式、ブロック方式の検討

ステークホルダー

教育委員会、市長部局、会議委員（学校・PTA・スポーツ協会・スポーツ少年団・民間クラブ・吹奏楽連盟）

経過

地域展開会議の意見や中学生アンケートの結果をもとに今後の地域展開の3つの方向性を決定→市HP、新聞等を通して周知・広報

実施内容

- ・学校、関係団体、実証事業対象部活動へのヒアリング、説明
- ・教職員アンケート、中学生アンケート
- ・市直営による実証事業の実施

実施にあたって生じた課題（令和6年度）

- 学校部活動と地域クラブ活動の違い、地域クラブと民間クラブの違いについて、保護者・関係者の理解に時間を要する。
- 単一部活がそのまま移行する形ではなく、合同部活の形から新規クラブ設立になる場合、保護者会組織の引継等の事務手続きが煩雑になる。生徒は別途統一ユニフォームの購入等の経費負担が発生する。
- 中体連大会では、地域クラブが市予選から参加することができない（地域クラブのみで予選会をし、県中体連に1チームのみ出場枠あり）。そのため、クラブ設立検討団体の足かせとなっている。

今後の展開

- 現在の部活動の適正化を図り、健全で持続可能な形にしていながら、地域も参画しやすい環境づくりを推進していく。
- 全校区での地域クラブの早期立ち上げは難しく、広範な種目を網羅的に実施することは難しい。そのため地域型クラブへの移行は、準備が進んだ地域・種目が先行する“まだら型”になることを想定。
- 実証事業の成果をロールモデルとして広報していく。

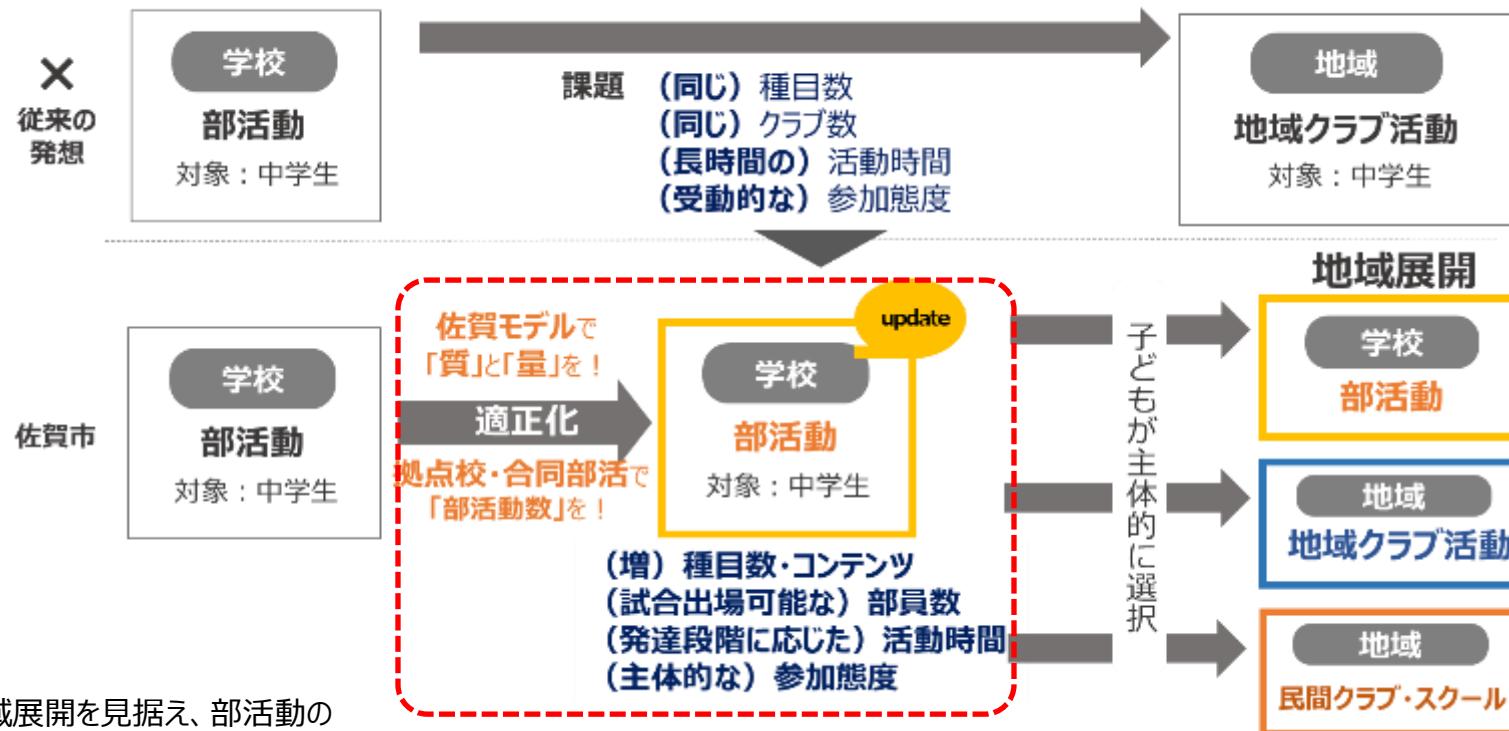
3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*

- すべての子どもたちにとって健全で持続可能な文化・スポーツ環境に
- 教職員がそれぞれの専門性を高め、質の高い学校教育を提供できる環境に
- 地域と学校が連携・協働した持続可能な活動体制に

健全で持続可能な
「教育環境」「文化・スポーツ環境」を創造する

現在の部活動を「そのまま地域にスライド」させることは持続可能ではない



将来的な地域展開を見据え、部活動の適正化というフィルターをかけることにより…

- 子どもにとって : 多様で主体的な活動・適切な活動時間、休養の設定・質の高い指導体制・文化・スポーツ参加率の維持に
- 教職員にとって : 学校の多忙化解消・指導従事を望む教職員、望まない教職員の双方の満足度向上に
- 地域にとって : 子どもたちを受け入れやすい持続可能な環境・多様な主体による受入体制に

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県 多久市

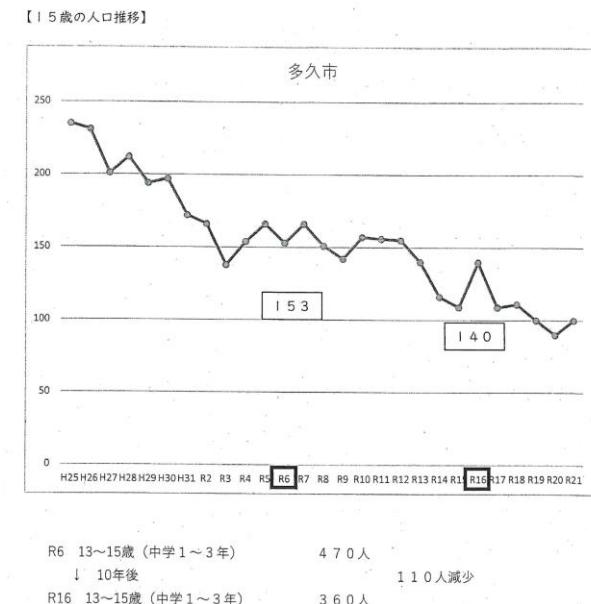
自治体名：佐賀県多久市

担当課名：学校教育課

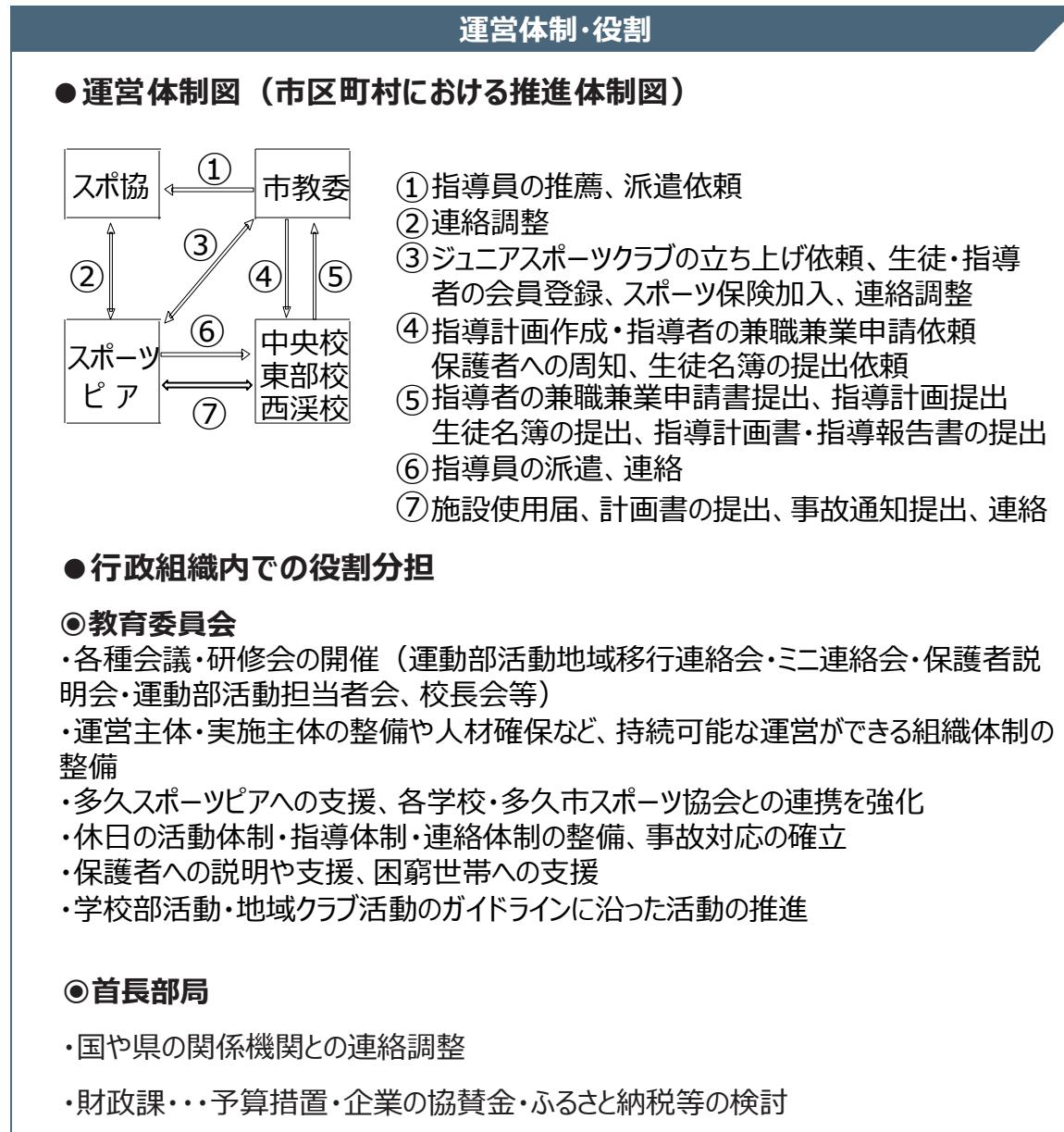
電話番号：0952-75-2227

1.自治体の基本情報

基本情報		地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題
面積	96.56km ²	これまで学校の部活動は、長い年月をかけて、我が国の文化・スポーツの普及・発展に貢献してきた。しかし、近年、生徒数の減少が加速するなど深刻な少子化が進行しており、チームスポーツは単独校での出場が困難な状況に直面している。また、部活動の顧問の多くは（62%）は競技経験がなく、精神的・時間的負担が増大する等、様々な課題に直面している。
人口	17,612人	このような状況にあっても、生徒が、本人の興味・関心に沿ったスポーツに継続して取り組むことができる環境を確保することを目的として、令和3年度、4年度「地域運動部活動推進事業」を活用して運動部活動の実証研究を開始し、地域移行への道筋は見えてきた。令和5年度、6年度においても、「地域スポーツクラブ活動体制整備事業」を活用し、多久市では、令和7年度に休日のスポーツ活動において、「地域スポーツクラブ活動」への完全移行を実施する。
公立中学校数	3校	実施に向けては、地域指導者の発掘、確保が大きな課題であり、全クラブに指導者を派遣できる体制を構築することや指導者の質の保障、指導体制の確立を行うことが重要である。また、多久スポーツピアと学校の連携を強化することや、困窮世帯への支援、指導者謝金の支援等、課題が山積している。
公立中学校生徒数	426人	令和7年度から、全ての運動部活動の生徒や指導者を、総合型地域スポーツクラブの多久スポーツピアに加入させ、休日の活動を地域クラブ活動へ移行する。
部活動数	16部活	
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	運動部活動地域移行連絡会	
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み 令和6年3月改定	



2. 実証内容と成果



年間の事業スケジュール

【令和6年度】

4月	・事業計画策定 ・部活動指導員の登録準備 ・総合型地域スポーツクラブ 多久スポーツピア 及び、多久市スポーツ協会との協議
5月	・各学校部活動保護者説明会の実施 ・部活動指導者実施計画書の提出 ・部活動指導員の登録
6月	・可能な部活動の休日地域指導者への移行
8月	・部活動指導員等研修会 ・運動部活動担当者（顧問）会
9月	・運動部活動地域移行連絡会
10月	・ミニ連絡会（10～1月）月1回
12月	・教職員アンケート調査 ・運動部活動担当者（顧問）会
1月	・運動部活動休日地域移行説明会
2月	・運動部活動地域移行連絡会
3月	・事業完了報告書の作成 ・次年度計画・登録準備

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A : 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B : 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
TAKUMI-FC	・総合型 地域ス ポーツクラ ブ ・保護者 会	サッカー	月4回／ 週1回	平日 17:00 ～ 19:00 休日 9:00～ 12:00	9年11名 8年21名 7年13名	年間を通 じて祝休 日に実施	各学校グ ラウンド、 西宅運動 広場	2人	・4人（地域クラ ブ） ・4人（保護者 会）	月会費 3,000円／ 年会費 38,000円	地域クラブ

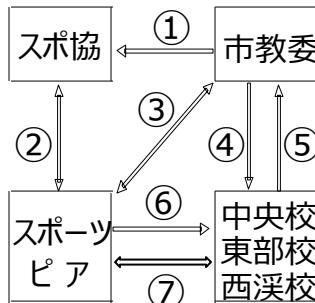
2. 実証内容と成果

● 地域スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	・総合型地域スポーツクラブ ・保護者会
期間と日数	サッカー：年間を通じて月4回程度
指導者の主な属性	部活動指導員・地域スポーツクラブ指導員
活動場所	各学校グラウンド、西多久運動広場
主な移動手段	スクールバス、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：年会費36,000円 (3,000円×12月) ※多久スポーツピア年会費2,000円 (スポーツ安全保険含む) 計38,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

主な取組例

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



- ①指導員の推薦、派遣依頼
- ②連絡調整
- ③ジュニアスポーツクラブの立ち上げ依頼、生徒・指導者の会員登録、スポーツ保険加入、連絡調整
- ④指導計画作成・指導者の兼職兼業申請依頼
保護者への周知、生徒名簿の提出依頼
- ⑤指導者の兼職兼業申請書提出、指導計画提出
生徒名簿の提出、指導計画書・指導報告書の提出
- ⑥指導員の派遣、連絡
- ⑦施設使用届、計画書の提出、事故通知提出、連絡

● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 統括責任者

役割：総合型地域スポーツクラブ「スポーツ・ピア」会長：関係団体との調整等
保護者会会长：実務的運営主体：保護者会の運営及び会計等

●主任指導者 2名

役割：部活動指導員に準拠した業務内容（技術指導ほか）を行う。

●運営補助者 「スポーツピア」3名・保護者会3名

役割：「スポーツピア」：関係団体との調整等・保険業務
保護者会：保護者会の運営及び会計等

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 各種会議の開催における、運動部活動地域移行の推進：部活動地域移行連絡会・ミニ連絡会・保護者説明会・運動部活動担当者（顧問）会、校長会、スポーツピア（総合型地域スポーツクラブ）打合せ会等
- 運営主体・実施主体の整備や人材確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備
- 多久スポーツピアへの支援、各学校との連携を強化
- 休日の活動体制の指導体制、連絡体制、事故対応の確立
- 保護者への説明や支援、困窮世帯への支援
- 学校部活動・地域クラブ活動のガイドラインに沿った活動

取組の成果

- 参加した生徒34人を対象としたアンケートの結果、回答者の96%が、活動がとても楽しい・楽しいと回答している。地域指導員の技術等の指導については、とてもよかったです・よかったですと回答した生徒が、94%となっていた。
- 残業時間が減ったと回答する教員が、95%に達し、1日平均1～2時間程度削減することができた。
- 休日の活動については、おおむね保護者会が中心となって見守りを行い、部活動運営に関わる人員が増加した。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 部活動地域移行連絡会を年に2回実施し、運動部活動地域移行の推進に寄与することができた。
- ミニ連絡会で、教育委員会・スポーツ・ピア・多久市スポーツ協会の代表が集まり、実質的な運営の在り方を具体的に決めていくことができている。

今後の課題と対応方針

- 他の競技種目の指導者についても、教育委員会とスポーツ協会を中心に指導者の発掘に力を入れていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・指導方針等について、研修会を実施し、指導者で共通理解を図り、指導体制を確立
- ・指導者謝金は、受益者負担を原則とするが、地域指導員体制整備事業を活用し、継続的な運営の在り方を構築していく。
- ・多久市スポーツ協会や各競技団体と連携し、各種競技の経験者等の地域指導者を発掘

【指導者数の確保】

- ・多久スポーツピアに指導者登録し、地域指導者を各クラブへ派遣

登録者属性

- ・多久市スポーツ協会や各競技団体と連携し、各種競技の経験者等の地域指導者を発掘
- ・多久スポーツピアに指導者登録し、地域指導者を各クラブへ派遣

取組内容

指導者の人数及び年齢構成

- ・指導者の合計 10名
- サッカー： 40歳代 1名
　　　　　　50歳代 1名
- 卓球： 30歳代 1名
- 剣道： 40歳代 1名
　　　　　　50歳代 1名
　　　　　　60歳代 1名
- ソフトテニス： 50歳代 1名
　　　　　　70歳代 1名
- トレーナー： 30歳代 2名
- 平均年齢 45.4歳

種目

令和6年度は、サッカーの地域指導員を2名登録。加えて、令和7年度、剣道・軟式野球・ソフトテニス・卓球で登録を予定。

資格有無

- ・サッカー：JFAの資格保有者が1名。
- ・剣道：七段を保有の指導者。
- ・ソフトテニス：協会の指導者を登録予定。
- ・野球は、元教員で指導歴が長いベテランが当たる予定。

取組の成果

- ・地域指導者の発掘・確保に継続的に取り組み、地域クラブ活動へ指導者を派遣する。
- ・多久市教育委員会主催の地域指導者への研修会を毎年実施し、指導者の質の向上を図る。
- ・佐賀県教育委員会保健体育課のSAGA部活指導者研修会への参加要請を行う。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・運動部活動等の教育的な意義
- ・佐賀県教育委員会保健体育課作成：「部活動指導員事前研修会資料」を活用しての研修会
- ・指導者としての義務および身分等について

受講者の声

- ・部活動の教育的な意義を学ぶことができてよかったです。
- ・指導者として、競技種目の技術指導だけでなく、生徒指導等にも力を注ぎたい。
- ・スポーツ・トレーナーの参加により、スポーツ医学など、専門的なことが学べる機会にもなった。

指導者研修の参加実績

- ・令和6年度SAGA部活指導者研修会Ⅰ・Ⅱへの参加
開催日：8月4日・12月5日・参加人数：延べ7名
- ・多久市教育委員会主催部活動指導員等研修会
開催日：8月8日・参加人数6名

今後の課題と対応方針

- ・多久市教育委員会主催の地域指導者への研修会を毎年実施し、指導者の質の向上を図る。
- ・佐賀県教育委員会保健体育課のSAGA部活指導者研修会への参加要請を行う。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組項目

- ・各種会議の開催における、運動部活動地域移行の推進：運動部活動地域移行連絡会・保護者説明会・運動部活動担当者（顧問）会、校長会、スポーツピア（総合型地域スポーツクラブ）打合せ会等
- ・ソフトボール・卓球、バレー・ボーラーの指導者を、継続して探す。
- ・指導体制の構築…学校部活動と地域クラブ活動の指導の一貫性・事故等対応・生徒指導上の課題

取組の成果

- ・地域スポーツクラブのTAKUMI-FCは、保護者会による運営が行われており、他の競技種目を地域移行する際の、好事例となっている。
- ・令和6年度に、部活動指導員として指導に当たった指導者が、令和7年度は、総合型地域スポーツクラブ「スポーツピア」に地域指導員として登録する予定である（軟式野球・ソフトテニス・卓球・剣道・スポーツトレーナー）。また、バレー・ボーラー・ソフトボール・（ハンドボール）は、部活動顧問が、地域指導員の登録を予定している。

バス等の運行実績

- ・日数 週当たり3日程度（水・木・土曜）
- ・利用者数 15名程度
- ・運行経路 2台程度
平日：東部校・西渓校から
中央校へ 15名程度
- 休日：東部校・中央校・西渓校から
西多久運動広場等へ 30名程度
- ※令和7年度：休日は、スクールバス3台
活用予定 各学校等の体育施設へ移動

バス等の運航経費・収入

- ・スクールバスの活用：
多久市教育委員会：スクールバス委託契約
株式会社「大新東」

今後の課題と対応方針

- ・地域指導に移行する際に、指導体制の構築が不可欠である。学校部活動と地域クラブ活動の指導の一貫性・事故等対応・生徒指導上の課題等に、連携して取り組む必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

工：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 工：面的・広域的な取組

取組事項	各自治体の役割	移動手段	事務局運営の方法
<ul style="list-style-type: none">他の市町立中学校や私立中学校の部活動との合同チームでの活動 (ソフトボール・ハンドボール)平日は、部活動指導員活用事業、休日は、地域スポーツクラブ活用整備事業において、活動を推進部活動指導員は、佐賀市の株式会社WIDEの派遣事業も検討中	<ul style="list-style-type: none">地区中体連や各競技団体へ登録方法や大会参加規程について、参加しやすくなるように働きかけを行う。他の市町の動向を見ながら連携し、地域スポーツ活動を推進するために、国や県の関係機関への働きかけを行う。	<ul style="list-style-type: none">中体連大会ではスクールバスが活用できるが、合同練習等では、他の市町までは、保護者の送迎となる。	<ul style="list-style-type: none">少人数でチーム編成ができない場合は、保護者会が、他の市町立中学校や私立中学校の部活動との合同チームでの活動を検討していく。
取組の成果		今後の課題と対応方針	
<ul style="list-style-type: none">令和6年度：中央校のソフトボール部が小城中学校と合同部活動を実施している。ハンドボール部は、私立の清和中学校と合同部活動を行っている。		<ul style="list-style-type: none">少人数でチーム編成ができない場合は、保護者会が、他の市町立中学校や私立中学校の部活動との合同チームでの活動を検討していく。	

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- ・大会・練習等の会場までの交通手段…スクールバスの活用。平日・土曜の午前中の運行を計画中。保護者送迎。
- ・部員数の確保と存続への課題
- ・スポーツ施設の確保…市の体育施設の優先使用
- ・保護者会の運営に関わる課題…組織・会費・規定等
- ・地区中体連や各種大会への参加規程の見直しへの働きかけ（チーム編成等）

取組の成果

- ・大会・練習等の会場までの交通手段…スクールバスの活用。平日・土曜の午前中の運行を実施している。
- ・部員数の確保と存続への課題…軟式野球・剣道・バレーボール・卓球で、複数校合同部活動を実施している。また、多久市以外の学校と合同で活動を進めている。
- ・スポーツ施設の確保…市の体育施設を優先して使用できるように、スポーツピアと協議を行った。
- ・保護者会の運営に関わる課題…先行して地域スポーツクラブとして活動しているTAKUMI-FCの保護者会を例に、今後、発足する保護者会は、組織・会費・規定等の体制づくりを行っていく。
- ・地区中体連や各種大会への参加規程の見直しを、県の中体連事務局に申し入れを行っている。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

【令和6年度】

【TAKUMI-FCの会費】 年間38,000円（月会費3,000円×12月）

【多久スポーツピア会費】 年会費2,000円（含：スポーツ安全保険）

※スポーツ安全保険

生徒1人あたり：800円/年・指導者1人あたり：1,850円/年

・TAKUMI-FC（サッカー）では、保護者会費より、指導者謝金として、毎月40,000円を、指導者2名で、振り分けている。

・活動費として、ボール等を購入。

取組の成果

- ・保護者の負担増・経済的に困窮する世帯への支援・補助
- ・地域スポーツクラブとして、会費を徴収。活動費・謝金等に活用。
※令和6年度、TAKUMI-FCは、多久スポーツピアの年会費を2,000円で実施。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

【令和7年度】休日地域クラブに移行する部活動

- ・スポーツピアへの年会費 年間7,000円
(世帯②二人目4,000円・③三人目以降2,000円)
(スポーツピアの運営費・指導者謝金・スポーツ保険加入料含む)
- ※多久スポーツピア年会費（スポーツ安全保険代含む）は、経済的に困窮する世帯には、全額補助金で支援を行う。
- ・基本は受益者負担。（保護者会等の設置・運営）
- ※TAKUMI-FC（サッカー）は平日の指導者謝金・活動費等は、保護者会が負担する。

収支バランス

【令和7年度】収支見込（加入生徒185名・指導者24名で試算）

〈収入総額〉3,353,000円 （内事業費補助金2,000,000円）

○スポーツピアへの年会費（合計1,353,000円）

加入者世帯一名の会費 年間7,000円×155名 = 1,085,000円

②4,000円×20名 = 80,000円 ③2,000円×10名 = 20,000円

※指導者年会費 7,000円×24人 = 168,000円

〈支出総額〉3,353,000円

○指導者報償費A 3,000円×4回×12か月×12名 = 1,728,000円

○指導者報償費B 1,800円×4回×12か月×12名 = 1,036,800円

○公式戦指導者交通費 500円×4回×2名×12種目 = 48,000円

○扶助費（困窮世帯会費補助）7000円×12名 = 84,000円

○役務費（報償費等支払事務）20,000円×12か月 = 240,000円

○スポーツ安全保険費 生徒 800円×185名 = 148,000円

指導者1,850円×24名 = 44,400円

計 192,000円

○消耗品費等予備費 24,200円

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ◆ミニミニ連絡会での協議（学校教育課と多久スポーツピアとの打ち合わせ）
- 学校部活動で使用している学校施設・備品を、地域移行したチームの活動でも使用できるように「学校体育施設・学校備品使用実施規約」を市教委が作成。
〔規約に記載する内容〕
 - ・使用可能な体育施設
 - ・使用時間、使用回数
 - ・施設使用の対象
 - ・鍵の管理
 - ・用具の管理について
 - ・使用許可の申請
 - ・使用制限
- 「学校体育施設・学校備品使用規約承諾書」を地域移行したチームの代表者が各校長へ提出。
- 「学校体育施設・学校備品使用規約承諾書」の提出を受けた学校は、内容を確認したのち、「使用許可書」をチームの代表者に渡す。
- 学校体育施設・学校備品破損等への対応 → スポーツピアで加入する保険で対応
- 各運動部活動の保護者会費、部費等で購入した物品の取り扱い
→ 地域移行したチームと運動部活動の保護者会で協議し、使用について確認
- ふるさと応援寄附事業の活用予定
→ 地域移行したチームが使用するための物品購入費を予算として計上



取組の成果

- 校長・副校長会で「学校体育施設・学校備品使用実施規約」の内容を協議し、決定する予定。
- 現時点で、学校体育施設の予約は、インターネットでの予約申請を行い、各学校等に設置している鍵付きのキーボックスを開錠するパスワードも、その際、自動で発行されるようにしている。
- 運動部活動の完全地域移行保護者説明会（1月実施）で、完全地域移行について説明。



今後の課題と対応方針

- 市教委で、「学校体育施設・学校備品使用規約」を完成し、詳細を地域指導者会議で説明する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- ・休日の活動時の保険：生徒・指導者ともに、多久市スポーツピアに入会し、保険に加入する。
- ・地域指導員の発掘と確保が大きな課題であるが、ソフトボール・卓球、バレー・ボーラーの地域指導者を継続して探す。

取組の成果

指導者の属性や配置の工夫

指導者の属性

- ・多久市スポーツ協会、または、各競技種目の団体に所属されていることが基本である。

配置の工夫

- ・バレー・ボーラーにおいては、中央校と西渓校が合同部活動を実施している。東部校は、少人数だが、チーム編成は可能な状態である。それぞれのチームで、地域指導員が配置できるように、現在、二名ほどの候補を選定している。それぞれに配置できるように計画中である。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- ・平日の部活動は、教員の顧問が指導の中心となる。中央校の女子ソフトテニスは、平日も、部活動指導員を配置し、指導を行っている。
- ・休日については、地域指導員を配置している。
- ・休日の練習試合等の計画は、顧問が、他校の顧問に連絡を取って実施している。

今後の課題と対応方針

- ・平日の部活動においても、地域指導員が指導の中心となるよう検討はしているが、本業のため、指導者の確保は難しい。
- ・今後も、しばらくは、顧問と地域指導員が、連携して指導に当たることが必要となる。

2. 実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

● 総括

- ・「多久市の生徒のスポーツ環境整備計画」（ロードマップ）に沿って、本事業を活用し休日の部活動の地域移行を進めてきた。実践研究する中で計画を見直し、令和7年度から休日の活動を地域クラブ活動へ完全移行する。
- ・部活動休日地域移行連絡会を設置し、2回の委員会を開催し、多久スポーツピアと連携し、運動部活動の地域移行の課題の把握や解決へ向けた方針を検討し、その内容を学校、保護者に周知し、取組に反映させることができた。
- ・多久スポーツピアに、地域クラブ活動の受け皿を作ることができた。各運動部で課題や必要性が違うが、全ての運動部で登録するように見直した。今後、保護者会で協議し、指導体制、保護者会の運営体制等整えていく。
- ・指導者が確保できた運動部へ、地域指導者を派遣し、休日の活動を実施した。実証研究中ということもあり、多久スポーツピアに登録していない運動部が多かったため、学校部活動と地域クラブ活動の中間的な活動になったが、地域移行へ向けた取り組みを進めることができた。
- ・スクールバスによる休日の活動場所への送迎体制を整え、学校施設だけでなく、市の施設を使用した合同練習を数多く行った。
- ・市スポーツ協会や競技団体と連携し、指導者の発掘を行った。

● 成果の評価

- ・地域移行へ向けて指導体制を整えるために多久市スポーツ協会、各競技団体、学校や保護者を通じて指導者発掘に努めた。いくつかの部活動の指導者は確保できたが、全ての部活動では、地域指導者の確保はまだできていない。今後も継続して指導者の発掘、確保を行うことが必要である。また、指導者と部員とのマッチングについても課題がある。
- ・まだ、指導体制、保護者会の運営体制等が整っていない部活動も多いため、可能な競技から地域移行を進めていく。
- ・運動部活動地域移行連絡会やミニ連絡会を月1回のペースで開催し、地域クラブとしてのスポーツピアへの登録、地域指導者の確保、大会参加、事故発生時の対応等地域移行に係る課題について、協議を行い、その内容を校長会、部活動顧問会、保護者説明会で伝えた。また、令和7年度からの休日の運動部活動完全移行についても説明を行い、地域移行への理解促進を図ることができた。

● 今後に向けて

- ・地域クラブ活動の受け皿である多久スポーツピアと協議し、サークル登録の方法、会費、サークルへの支援などについて改善を図った。登録については各部ごとに検討し、移行可能な部から地域移行をすすめていく。個人での入会も可能とした。
- ・平日だけでなく、スクールバス3台で、休日の3路線の定期運行を実施する予定である。サッカー・野球・剣道・卓球・バレーボールは、令和7年度は合同で練習会を実施し、生徒を各練習場所まで輸送を行う。
- ・指導者謝金は、原則として、受益者負担になり、保護者の負担が増す。令和7年度は、地域スポーツクラブ活動体制整備事業から支出する予定だが、次年度以降に向けて、令和7年度中に、協賛企業や寄付等で基金をつくり、そこから支援ができないか検討する。部活動指導員を更に増やし、地域クラブ活動の指導員として活用していきたい。
- ・県中体連の大会規定の見直しがなされ、地域クラブ活動での参加が可能になったが、その枠は非常に小さい。地区中体連への参加枠を増やすなど、さらに拡大を求めたい。

2. 実証内容と成果③

多久市の人を指導してみませんか？

令和7年度 運動部活動休日地域移行スタート

地域指導者募集中

<p>【募集種目】</p> <p>多久市内義務教育学校に設置されている運動部活動のうち、 ソフトボール・ハンドボール・卓球・バレー・ソフトテニスの5種</p>	<p>【応募対象】</p> <p>資格の有無は問いません。 競技経験、指導経験があればOKです。</p>
<p>【活動日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に土曜日9～12時 月に3～4回 <p>※練習試合や公式戦が日曜日に組まれる場合あり</p>	
<p>【職務内容】</p> <p>O 地域指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術指導、練習方法の助言 保護者等との連絡、調整 休日の練習試合、大会の引率 等 <p>O 补助支援者</p> <ul style="list-style-type: none"> メインのコーチの補助 練習の補助 用具等の管理 等 	
<p>【登録までの流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 登録申請書を多久市教育委員会へ提出 教育委員会、学校、スポーツピアで確認した後、面接等を経て任用決定 スポーツピアの指導者となり、年会費700円（保険料含む）※を収める ※すでに個人会員、ファミリー会員であれば不要 スポーツピアの会員特典も受けられる 	
<p>【お問い合わせ先】</p> <p>〒846-8501 佐賀県多久市北多久町大字小寺7番地1 多久市教育委員会 TEL (0952) 75-2227 FAX (0952) 75-2279 MAIL gakkokyoku01@city.taku.lg.jp</p>	

アンケート結果・広報資料

多久市地域指導者登録申請書

記入日	令和 年	月	日現在
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 更新 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 取消			
フリガナ	性別	□男性 □女性	写真添付 縦40mm×横30mm
氏名	職業		
生年月日 (昭和・平成)	年	月	日生 (満 歳)
住所			
連絡先	電話番号		
	メールアドレス		
保有する資格・免許	<small>(最終更新日: 年 月 日)</small> <small>(最終更新日: 年 月 日)</small> <small>(最終更新日: 年 月 日)</small>		
申請要件	<input type="checkbox"/> 当該年度4月1日現在の年齢が満18歳以上である <input type="checkbox"/> 指導する種目に関する専門的な知識・技能を有し、多久市の方針に則った指導が可能 <input type="checkbox"/> 政治的、宗教的中立性を保ち従事することができる <input type="checkbox"/> 過去の指導において、体罰、ハラスメント等、指導者として不適格と認められる事項がない <input type="checkbox"/> 子どもの人格形成に関わる者として、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力などを備えている		
希望する種別	<input type="checkbox"/> 地域指導者（メインのコーチとなる指導者） <input type="checkbox"/> 補助支援者（メインの指導者の補助を行う）		
指導可能種目			
指導実績	指導期間	内容・指導団体名称等	
	年 月～ 年 月		
	年 月～ 年 月		
競技実績	競技期間	内容・競技団体名称等	
	年 月～ 年 月		
	年 月～ 年 月		
その他			

※個人情報は厳重に管理し、地域スポーツ活動関係以外には使用しません。

【指導者申し込み書類】

説明会案内チラシ】

運動部活動休日地域移行

説明会

令和7年度に完全実施する運動部活動の休日地域移行について説明いたします。保護者、児童生徒のみなさんだけでなく、スポーツの指導に興味がある方も参加できます。事前申し込みは不要です。

令和7年1月28日(火)19:00～20:30(受付18:30)

会場 多久市中央公民館 大ホール



これまでの部活動と何が変わるの？

休日にケガをした場合の保険は？

受益者負担といふけれど、費用はどのくらいかかるのか？

自分の学校にないスポーツもできるようになるのかな？

その不安と疑問にまるっとお答えします。とにかく説明会に参加してください。お待ちしております！

【問合せ先】 多久市教育委員会 学校教育課 (0952)75-2227

2. 実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



合同での練習試合での指導



合同での練習試合での指導



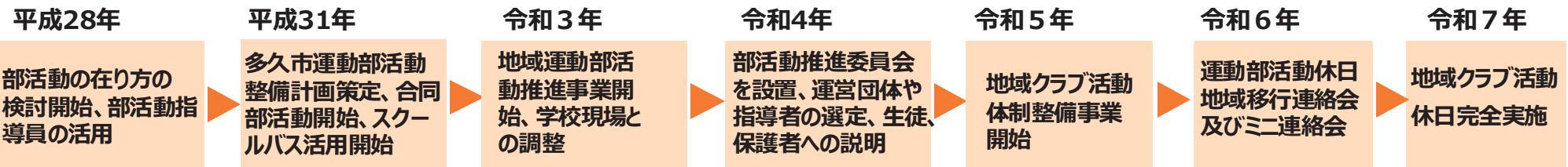
合同での練習試合での指導



合同での練習試合での指導

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、多久市スポーツ協会、競技団体、市長部局、市教委

経過

多久市では、平成28年度より部活動の在り方の検討を開始し、平成31年度運動部活動整備計画を策定した。令和4年度部活動推進委員会を設置し、総合型地域スポーツクラブ「スポーツピア」を主体とした運営団体とすることにしたが、運営方法に賛同が得られず、一旦は頓挫した。令和5年度に中央校のサッカー部がクラブチーム「TAKUMI-FC」として休日の地域クラブとして発足した。その後、大学教授を助言者に、「スポーツピア」と市教委、スポーツ協会等で、令和6年度運動部活動休日地域移行連絡会を設置して、新たな地域クラブ体制作りを行った。令和7年度より部活動の休日地域移行の完全実施に向けて、各学校6～8年生の保護者や関係機関を対象に、推進計画や地域クラブの活動指針の説明会を令和7年1月に実施した。

実施内容

令和7年4月から、3校のサッカー・軟式野球・ソフトテニス男女・卓球・剣道・ソフトボール・バレーボール・（ハンドボール）が、休日の部活動を取りやめ、地域指導者による活動に完全移行する。

この内、サッカー・軟式野球・剣道・バレー・ボールは、2つ以上の学校の生徒が参加する形態である。また、サッカーは完全クラブ化しており、他市町からの参加者もいる。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動では、活動場所の予約や鍵の貸出への指導者の負担が大きいため、教育振興課が、各学校の活動場所にキーボックスの導入することを決定している。

また、種目によっては指導者の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ協会に対して、指導者募集の案内を出すなど、スポーツピアや市教委より、関係者への働きかけを行っている。

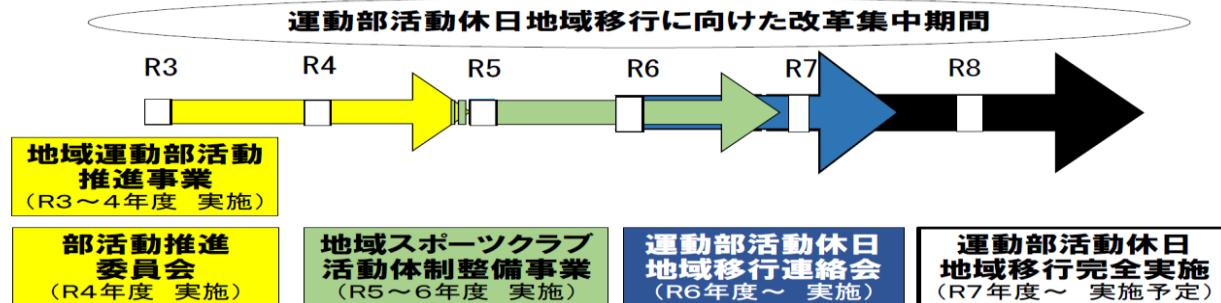
今後の展開

持続可能な地域クラブ運営するために、スポーツピアに加入し、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、今後も説明会等を実施し、会費負担の必要性について説明する。また、スクールバスの土曜日の定期運行を4月から開始し、活動の実施場所に送迎が行われる。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*

R3年度以降 多久市では…



将来的には、平日も地域展開を見据えて

R7年度以降 運動部活動地域移行がもたらす影響

- 自校に部活動がなくても、休日に地域移行したクラブに参加できる。
- 合同練習によって、他校とのつながりが広がる。
- 専門的指導を受けることができる。
- スクールバスが利用できることで保護者の送迎負担が減る。

- △ 受益者負担(指導者報酬、スポーツピアへの登録料 等)
→ 経済的に困窮する世帯への支援・補助

【子ども・保護者】

- 教員の負担軽減(働き方改革)
ただし、希望する教員は、地域指導者登録可能。
- 指導の経験がない教員でも地域指導者から学べる。

- △ 平日の部活動と休日の地域移行クラブとの連携が必要不可欠
→ 部活動顧問と地域指導者のコミュニケーション

【学校】

- 地域のスポーツ人口増加(各種協会、団体の活性化)
- 多久スポーツピアの発展

- △ 他市町とのチーム編成協議の必要性

【地域】

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県 基山町

自治体名：佐賀県基山町

担当課名：基山町教育委員会 教育学習課

電話番号：0942-92-7980

1.自治体の基本情報

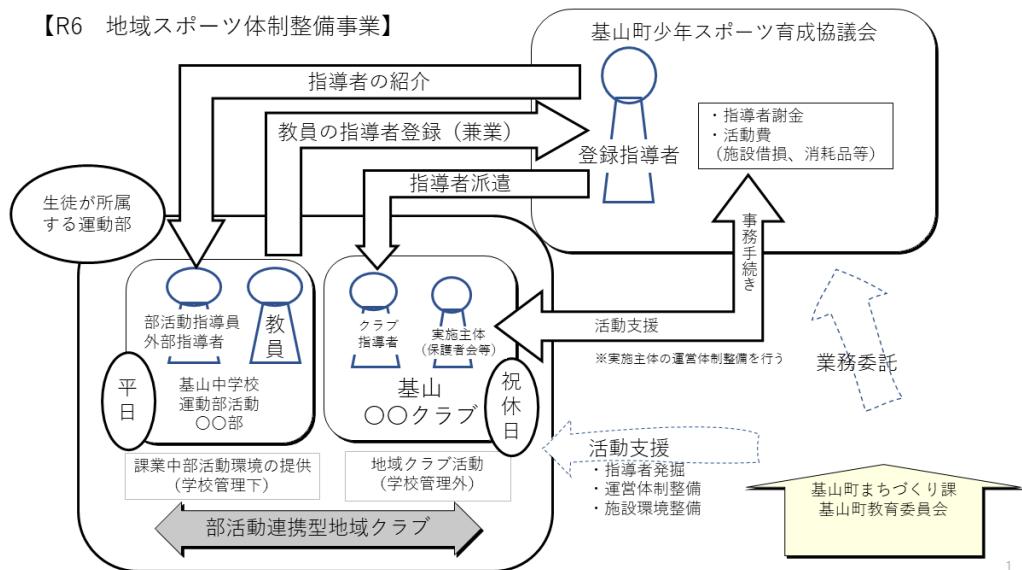
基本情報	
面積	総面積22.15 km ²
人口	17,584人 (R7.2月末現在)
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	390人
部活動数	17 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題
<p>基山町は人口1.7万人を有し、学校については2小学校1中学校と1中学校校舎で成り立っている。町民のスポーツ活動に対する意識は高く、特に野球やソフトボール、バレーボールについては、地域の活動も盛んに行われており、大会等が通年で行われている。学校部活動についても、町民の関心が高いところがあり、部活動の環境維持については町の課題ともいえる。</p>
<p>現在のところ本町の部活動改革に向け、浮き彫りとなったのが以下の課題である。</p>
<ul style="list-style-type: none">・町内で中学生を対象としているスポーツクラブは、サッカーを除き、学校設置の部活動以外の種目である。・基山町中学生のスポーツ活動の多くは部活動に依存している。・教職員のライフワークバランスの視点から、部活動改革の必要性が高まっている。・遠方のクラブに高額な費用をかけて通う生徒もいるが、町内でスポーツに取り組む生徒を育成できるシステムの構築が望まれる。
<p>まずは学校部活動の中に地域指導者が参入していくことで、地域連携を進めていく。同時に、今後、社会体育連携型の活動のための運営主体を構築できそうな部活動を順次移行へと着手していくことを目指している。</p>
<p>また、中学生スポーツ団体を統括するための組織が必要となるため、昨年度より「基山町少年スポーツ育成協議会」が支援をし、今後の体制整備の構築を図ろうとしているが、今後の運営体制をどのようにしていくかが本町の課題といえる。</p>

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

● 運営体制図（市区町村における推進体制図）



年間の事業スケジュール

令和6年4月	保護者へ部活動改革の説明
令和6年6月	少年スポーツ育成協議会総会
令和6年8月	第1回 中学生のスポーツの在り方検討会議
令和6年9月	対象部活動保護者への説明
令和6年10月～11月	地域スポーツクラブ運営実証期間
令和7年1月	対象部活動保護者検証会
令和7年1月	アンケート調査実施
令和7年2月	第2回 中学生のスポーツの在り方検討会議

● 行政組織内での役割分担

◎ 教育委員会

- ・教育学習課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

◎ 首長部局

- ・まちづくり課…少年スポーツ育成協議会の主管課

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

取組として、地域連携のための中学校部活動支援として、「基山町少年スポーツ育成協議会」がつなぎ役となり指導者派遣や小学生の部との連携を行っていく。第1段階 部活動指導員制度、外部指導者制度の活用による地域人材の介入、第2段階、地域指導者中心の活動の体制づくり、学校管理外活動の着手、第3段階 地域移行し持続可能な体制整備 の3段階で進めていくこととした。

取組の成果

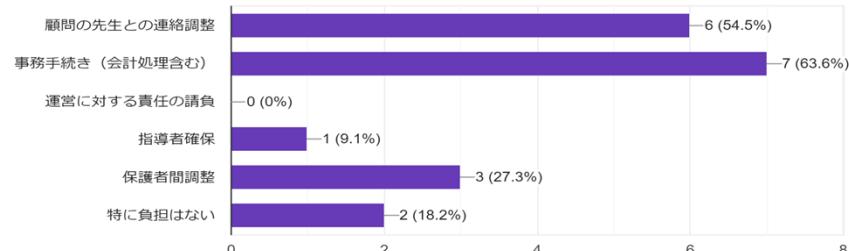
地域連携のための調整役を少年スポーツ育成協議会が担い、実際の競技種目ごとの運営を競技種目の保護者が担うことになる。地域クラブとして自立するには指導者との連携、事務手続き等のマネジメント業務を各競技ごとで担う必要があるため、各競技種目保護者会に種目ごとの運営を依頼した。

明確になったのは以下のとおりである。

- ・指導の役割と運営の役割を分けることで、指導者の確保がしやすくなつた。
- ・少年スポーツの経験がある種目は、事務手続きには滞りがなかつた。
- ・少年スポーツがない競技種目については教員がマネジメントを担う場面もみられた。
- ・部活動から地域移行を考える11種目の保護者代表の意見では、顧問の先生との連絡調整や事務手続きに不安を感じている。

今回の事業に参加した学校部活動11競技の保護者代表のアンケート結果②

今回の事業で大変だったことは何ですか。（複数回答可）
11件の回答



今後の課題と対応方針

- 公的支援の対象とする地域クラブの基準がないため、今後、都道府県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整して設定し、登録・指定等を実施する必要があると考える。
- 次年度はコーディネーターを配置し、新たな運営主体とその役割についての検証を行う。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 「少年スポーツ育成協議会」からの指導者の派遣が可能な場合は派遣する。
- 運営体制と指導を分けることで、地域指導者が参入しやすい環境を構築する。
- 完全移行までは教員の兼業もあるが、責任の主体や運営を保護者等の管理体制に移すことで、教員の拘束時間を減らす。

取組の成果

平日の部活動より、クラブ活動時（休日等）の指導者の人数が確保できるようになった。その要因として次のことが挙げられる。

・運営を任せられるため、指導のみに従事できる環境であった。
・保護者の意識が変わり、少年スポーツの指導者にも指導の補助を依頼することができた。

また、兼業教員については学校管理下でない時間であり、休日は私事を優先できるようになった。

部活動・クラブ名	活動日	平日学校部活動			クラブ活動時		指導者 (顧問は兼業)
		配置 顧問	部活動指 導員	外部指 導者	活動日		
野球	金曜のみ	1名	○		火、木、土、日	5名	
男子バレー	平日	3名	○		土または日	8名	見守り保護者を含む
女子バレー	平日	2名			土または日	3名	
男子バスケットボール	平日	2名	○		土または日	3名	
女子バスケットボール	平日	2名			土または日	2名	
男子ソフトテニス	平日	2名			土または日	3名	
女子ソフトテニス	平日	2名	○	○	土または日	22名	見守り保護者を含む
男子卓球	平日	3名	○		土または日	3名	
女子卓球	平日	2名	○		土または日	3名	
剣道	平日	2名			土または日	2名	
柔道	なし	2名		○	火、木、土	2名	
サッカー	平日	2名			土または日	3名	
バドミントン	なし				確認中	3名	
空手道クラブ	なし				確認中	3名	

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 地域連携のための中学校部活動支援として、「基山町少年スポーツ育成協議会」がつなぎ役となり指導者派遣や小学生の部との連携を行っていく。
- 今後の持続可能な受け皿を模索するための検討を行う。

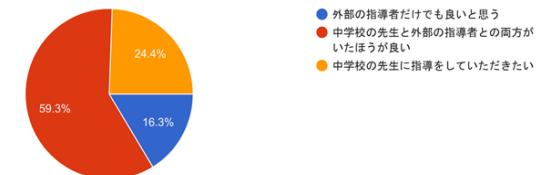
取組の成果

- 保護者や生徒の意見から、学校連携を密にできる運営体制を構築することが必要であることが明確になった。
- 「基山町少年スポーツ育成協議会」が事務局となり、各競技種目団体を取りまとめる役を担った。
- 中学校部活動と少年スポーツの連携がどの種目においても密になった。
- 中学生スポーツを統轄する団体の設置が必要であり、以下の役割を担うことが明確となった。
 - ・町内公共施設借用等の利便性の向上
 - ・運営者の情報交換の場
 - ・指導者の資質向上
 - ・適切な活動に対する指導・助言
 - ・有事の際の活動是非基準の設定
 - ・活動者の相談窓口
 - ・学校との連携窓口
 - ・指導者確保の支援等

部活動改革に関するアンケート（生徒・保護者）③

生徒

部活動指導に先生以外が入るようになったときにどう思いますか?
135件の回答

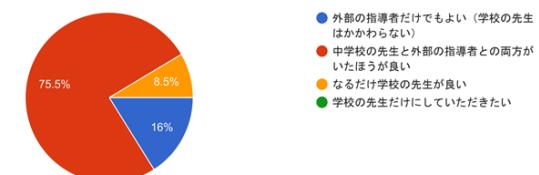


今後の課題と対応方針

- 次年度はコーディネーターを配置し、学校部活動との連携で成立ができる地域クラブの在り方を目指す。
- 競技種目を統轄する団体事務局の設立に向け、有効な方法を模索する。

保護者

今後、部活動に学校の先生以外が指導に入ることをどう思いますか?
106件の回答



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の事項

今回の事業は次の4点を念頭に置き実施した。

1. 令和8年度以降を見据え、学校管理外で運営する方法を模索する
2. 地域スポーツクラブに移行した上で利点を確認する
3. 地域指導者が参画しやすい環境を構築する
4. 地域指導の協力体制や競技ごとに特性を踏まえ、実情に応じた地域移行の方策を検討する

取組の内容

1. 実証期間 10月～11月
2. 実証人数 生徒 125人 指導者 65人（見守り保護者を含む）
3. 事業期間の週休日（土日）は学校管理外として運営をする（保護者等による運営）
4. 週休日は地域指導者を求めるが、現在の指導体制を鑑み、教員が兼業をして指導も可とする
5. 指導者謝金（2,700円、特殊業務手当と同等）の事業費からの支出
6. 指導者及び生徒の活動にかかる保険費用の事業費からの支出
7. クラブ運営に必要な消耗品、練習会場借用費などの補助を実施

今後の課題と対応方針

運営体制が自立していくことで、指導者の確保がしやすくなることから、次のような対応を次年度は実施する。

1. 運営主体を自立させるための検証（実証事業の活用）
2. 地域展開に向けた学校での取組（運営主体の移行促進）
3. 地域指導者の発掘・人材確保のためのシステムの構築
4. 地域クラブ運営主体の設置の検討

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面向的・広域的な取組

オ：内容の充実
力：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



●取組項目名 力：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・施設利用料の減免措置等の施行
- ・費用負担における保護者の考え方の調査

取組の成果

学校部活動から社会体育クラブに移行をした時点で、学校施設であっても利用料が発生するが、実証期間においては学校部活動と同等とした。

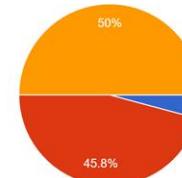
指導者確保のために指導者への財源が受益者負担も考えられる。多くの保護者は無償には考えておらず、そのような理由で保護者負担が増えたとしても子供に活動を継続させたい意向はある。

取組内容

部活動改革に関するアンケート（保護者）

部活動や社会体育活動の指導者謝金等に対するお考えをお聞かせください。

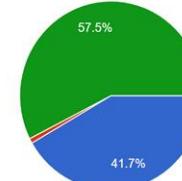
120件の回答



- ボランティア（謝金等なし）でよいと思う
- ある程度の謝金が必要（月5,000円～10,000円程度）
- 国が示す報酬（時給1600円程度）を支払った方が良い

もし、現在の費用負担（月額）が増額された場合はお子様を続けさせますか？

120件の回答



- 続ける
- 別のクラブを探す
- やめさせる（部活動や社会体育をさせない）
- 子どもの意向を優先に決める

今後の課題と対応方針

学校施設や公共施設を地域クラブに移行した際も減免ができるようなシステムを確立するため、条例や規則の改正等を検討していく。
また、平日を地域移行とした際には、部活動の時間帯がずれるため、照明を利用することもある。実費がかかるため、費用負担について検討していく。

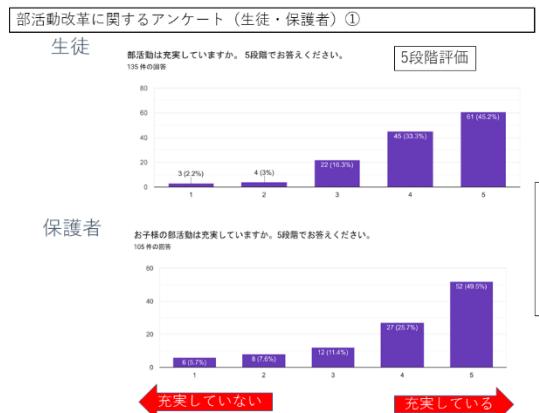
2. 実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

● 総括

現在の本町における部活動の実施状況については多くの生徒及び保護者の満足度が高い結果となっている。そのような状況下で部活動改革を進めていくためには、両者の理解を得ながら進めていくことが必要であると考えている。

一方で、学校教員については、休日の負担感が一番の課題となっている。この状況を改善していくために、指導の中心を地域に移行をしていくことや平日の顧問教員と生徒との関わり方などを検証していくことが、生徒及び保護者に影響なく進めていくために必要なことと考える。



● 成果の評価

今回浮き彫りになったのが、少年スポーツの有無により競技種目ごとの運営体制が構築できるかどうかに差があったことである。部活動がこれまで教員の献身的な取組によって成立してきてることをきちんと説明していくことで、競技種目ごとの運営について保護者の方へシフトしていきたい。

● 今後に向けて

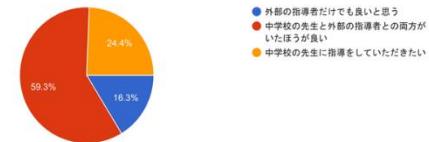
部活動がこれまで担ってきたのは、教育の一環としてのスポーツ指導であり、学校生活においても連携して指導が行えていた。アンケート結果から学校連携については多くの生徒と保護者ともに継続していただきたいと望んでいることがうかがえる。

本町の構想として、学校連携を密にして、これまでの部活動の良さを生かした地域展開を実施する方向性を見出していく。

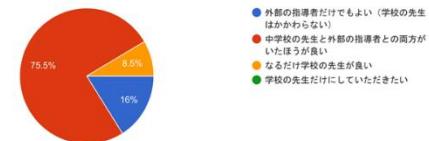
まず、次年度はコーディネーターを活用して、運営主体体制と各競技種目ごとの運営体制の確立に努めたい。

部活動改革に関するアンケート（生徒・保護者）③

生徒 部活動指導に先生以外が入るようになったときにどう思いますか？ 135件の回答



保護者 今後、部活動に学校の先生以外が指導に入ることをどう思いますか？ 106件の回答



2. 実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果

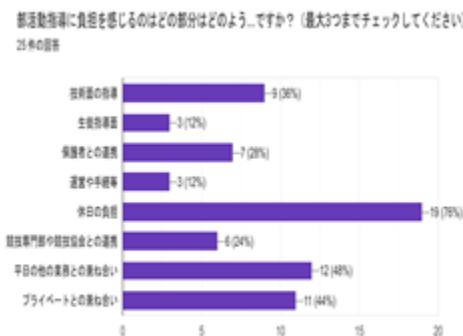
Q.どのような指導者に習いたいですか?
(生徒)



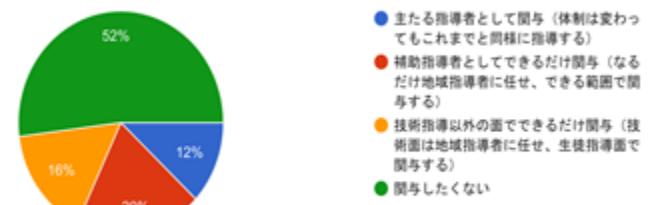
Q.どのような指導者に習いたいですか?
(保護者)



Q.部活動指導においてどのような部分に負担を感じていますか? (教員)



Q.休日に地域クラブとして運営する際はどの程度関与しようと思いますか? (教員)



基山町部活動改革アンケート（実施期間：令和7年1月）の結果抜粋

● 参加者の声

中学2年生

専門的なことを教えてもらえてよかったです。もっと技術を伸ばして試合で活躍したいと思いました。

中学2年生

外部コーチだけだと心配なことが多い。練習とか誰に聞いていいかわからないときがある。

保護者

部活動が地域クラブになっても、勝つだけの目的ではやってほしくない。学校生活も見ていただく先生は必要だと思います。

教員

部活動地域移行は難しい部分がある。今の教員の現状を理解してもらうのも大事だと思う。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

令和6年

運営団体や指導
者の選定、拠点
校の選定

令和7年

地域クラブ活動
の開始

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

ステークホルダー

学校、基山町教育委員会 基山町少年スポーツ育成協議会
基山町まちづくり課

経過

令和3年度より本格的に検討会議を設置し、中学生スポーツを競技協会ではなく、少年スポーツとの連携を意識した計画で推進を進めてきた。令和5年度からは、基山町少年スポーツ育成協議会に委託をし、運営主体の検証を行ってきた。令和6年度は全運動部活動において検証活動を行った。

実施内容

10月、11月の2か月間で全運動部活動及び現在の中学生が在籍する2種目で、地域クラブの実証事業を行った。指導者の確保しやすい環境や自立していくことを見据え、競技種目ごとの運営体制の検証を基山町少年スポーツ育成協議会を通して実施した。

実施にあたって生じた課題

実証期間の中で、少年スポーツでのノウハウがある競技種目については競技ごとの運営体制を構築できたが、少年スポーツがない競技種目については運営が難しかったため、支援が必要になる。

また、部活動の満足が高いことから、現在の体制を大きく変更せず、管理体制のみを学校からシフトし、教員がすべてを見ないでよいシステムや地域指導者を参入しやすい形にしていくことが必要である。

今後の展開

令和7年度は部活動と地域を連携させるコーディネータを配置し、現在「基山町少年スポーツ育成協議会」が担っている役割について中学生スポーツに特化した団体の設立の準備をする。その役割を明確にしていくことで、民間スポーツクラブと地域スポーツクラブをきちんと整理し、町立学校との連携を密にできるシステムの構築を目指す。

3.今後の方向性

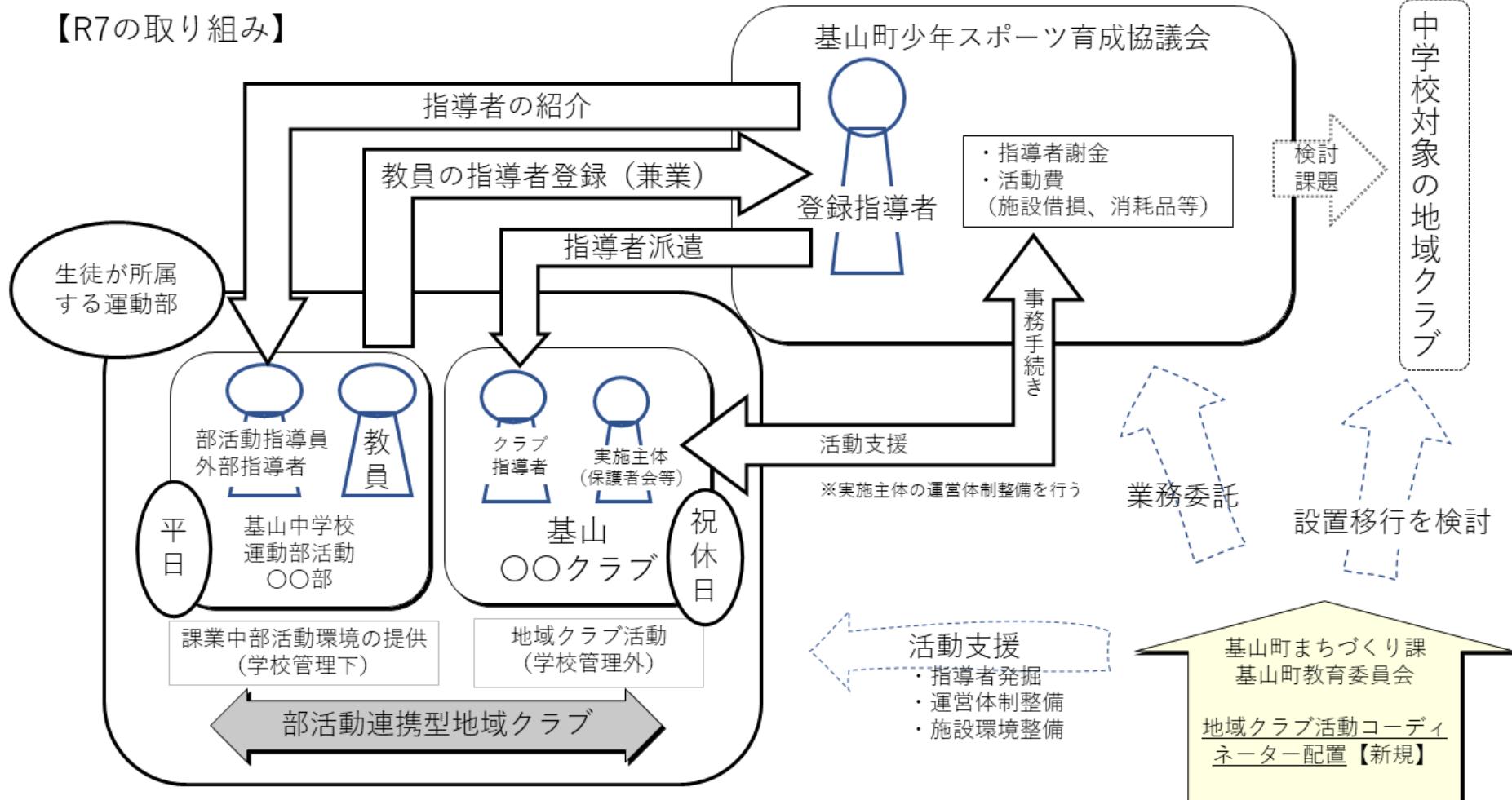
地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^⑥

年 度	推進の内容
令和6年度 (移行準備)	<ul style="list-style-type: none">・地域クラブ移行への保護者説明・地域指導者の参画促進・体制が整った学校部活動から休業日（土日等）を地域移行
令和7,8年度 (移行促進)	<ul style="list-style-type: none">・体制が整った学校部活動から休業日（土日等）を地域移行・学校管理外活動の安全管理体制の確立・学校連携型の地域スポーツクラブ活動体制の充実・運営主体の設置
令和9年度 (完全移行)	<ul style="list-style-type: none">・すべての部活動において、休業日（土日等）は地域クラブ（学校管理外）で活動・学校部活動の再編

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^⑥

【R7の取り組み】



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

佐賀県 白石町

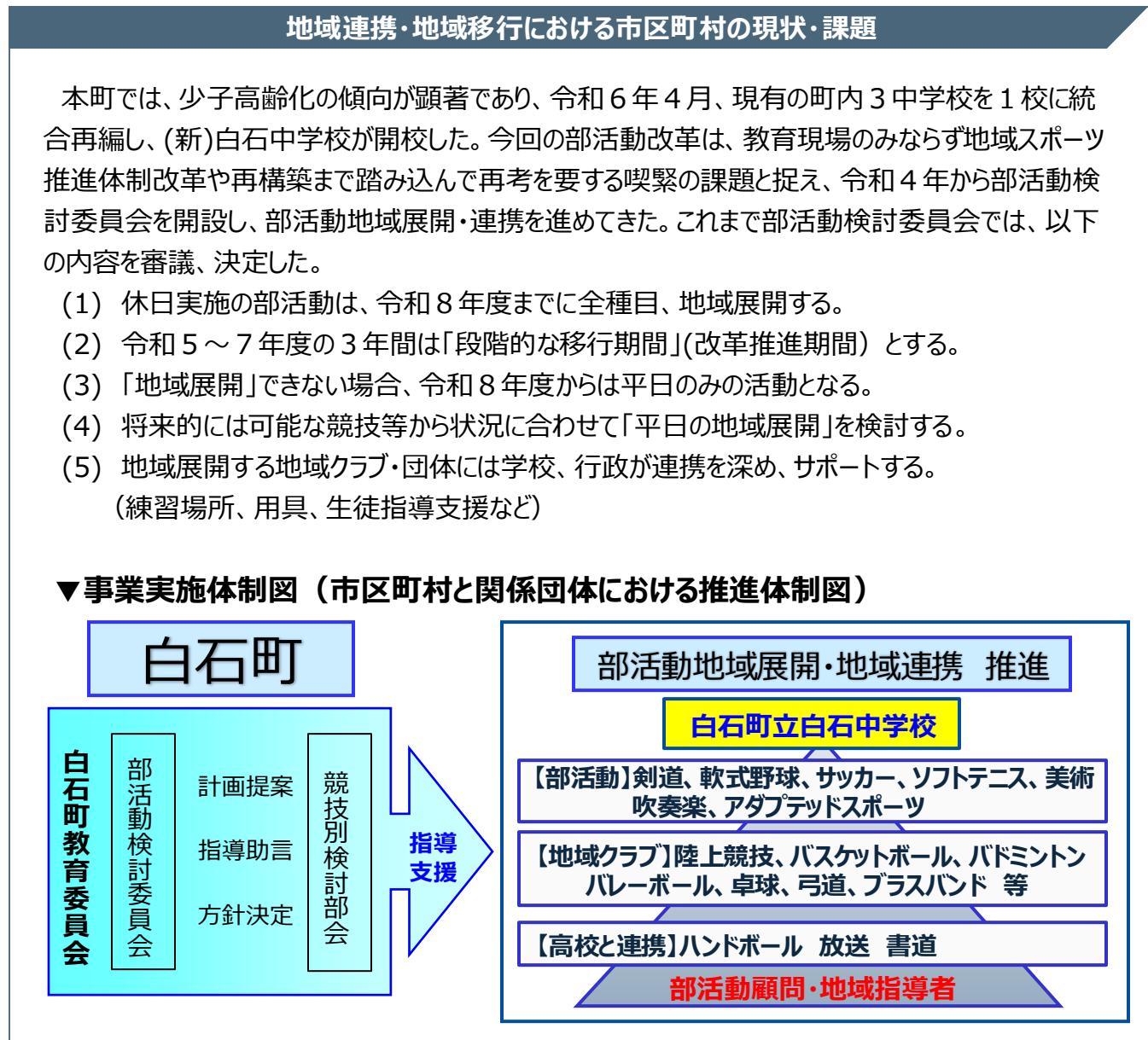
自治体名：佐賀県白石町

担当課名：新しい学校づくり課

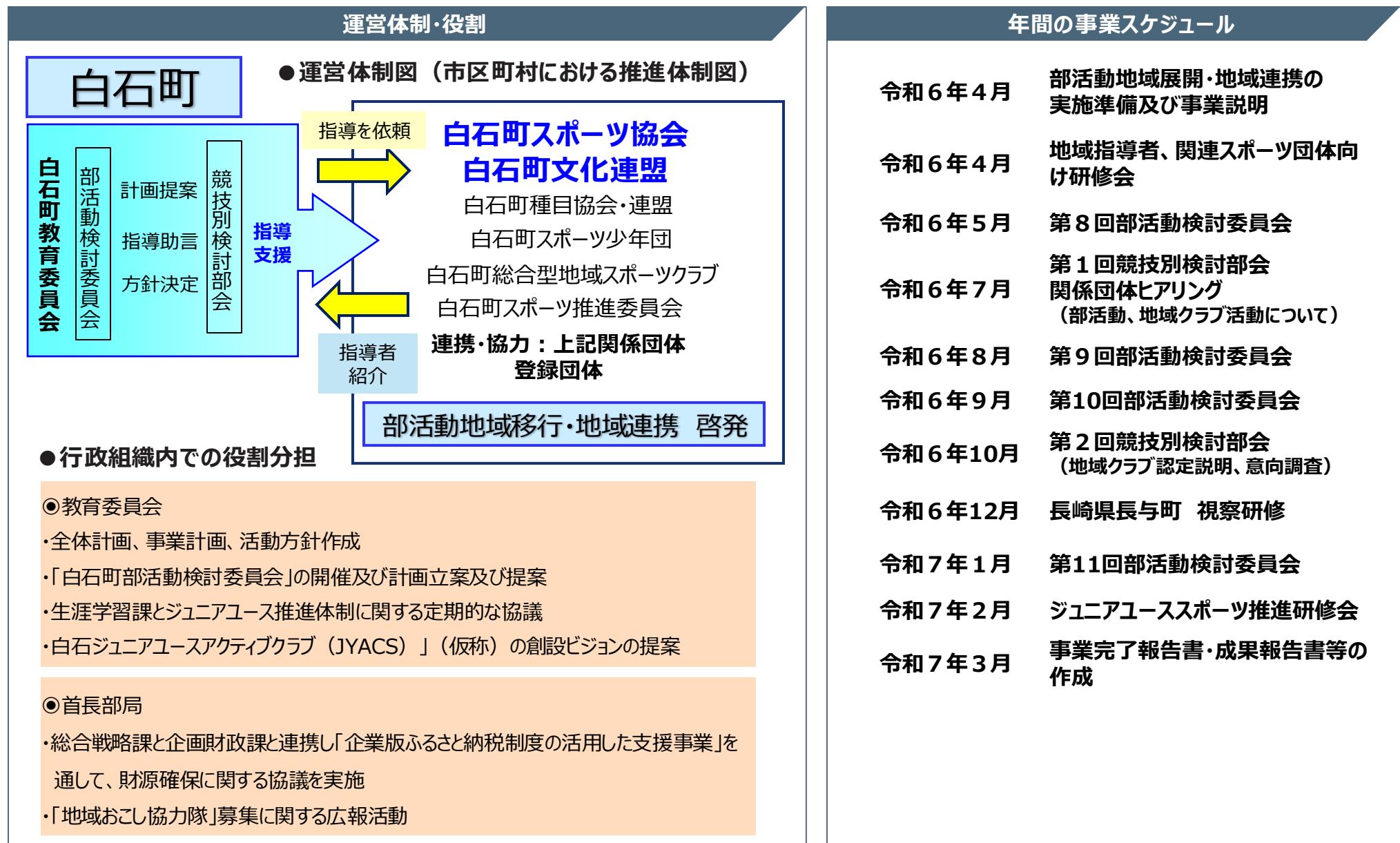
電話番号：0952-84-7128

1.自治体の基本情報

基本情報	
面積	99.56 km ²
人口	20,548 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	550 人
部活動数	15 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	白石町 部活動検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	白石町立学校「部活動の方針」 白石町地域クラブ活動の基本方針



2. 実証内容と成果①



2. 実証内容と成果②

令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（スポーツ庁、佐賀県教育委員会委託事業）

○全体に関すること

1. 関係者との連絡調整・指導助言の体制、運営団体・実施主体の整備

(1) 部活動検討委員会の開設と開催（年間4回）

学校管理職やスポーツ協会、スポーツ推進委員、学識経験者、競技別団体、スポーツ少年団、総合型クラブ等の代表者が一堂に会し、より具体的な組織体制の整備と地域クラブ育成、指導者派遣について協議を行う。

(2) 競技別検討部会の開催（年間2回）

(3) 各種広報活動

2. 地域指導者のさらなる発掘と育成

(1) 教職員に頼らない指導体制づくり

⇒地域指導者（スポーツ分野、文化芸術分野ともに）の公募

(2) JSPO 公認スポーツ指導者資格（スタートコーチ）の取得促進と助成

(3) 教職員の「兼職兼業」整備

3. 関係団体・分野との連携強化

(1) 白石町スポーツ協会（スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等）の組織体制の整備と拡充

(2) ジュニアユーススポーツ推進研修会の開催（年間1回）

(3) 教育行政関係者や学校関係者、地域住民、生徒保護者等に対する「部活動地域連携・地域移行」に関する情報や事業内容の周知

4. 参加費用負担の支援等

(1) 財源確保⇒保護者・生徒の受益者負担意識の醸成と一定の財源負担

(2) 困窮家庭の支援の在り方について協議

(3) 総合戦略課との「企業版ふるさと納税制度」を活用した支援事業に関する協議

5. 活動場所の確保

(1) 学校体育施設、社会体育館、町公共スポーツ施設の有効活用

(2) 中学校体育館や運動場等の有効活用や予約手順、施設管理に関する規則や規定の制定

○各クラブに関すること

開設する部活動及び地域クラブ

○ 学校部活動

軟式野球 バレーボール【男・女】 ソフトテニス【男・女】

バスケットボール【男・女】 卓球【男・女】 剣道

ソフトボール サッカー

吹奏楽部 美術部

*陸上競技は「白石アスリートクラブ」で活動

アダプティッドスポーツ部…モルック、ボッチャなど

※アダプティッドスポーツ

「人の発達や運動能力に合わせてスポーツをする。」

○ 高校や地域と連携した部活動

ハンドボール部……佐賀農業高校で週1～2回程度活動

書道 放送・朗読…白石高校で週1回程度合同で活動

期間・時間を決めて活動

○ 中学生が活動できる地域クラブの紹介

*スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ

バドミントン 弓道 柔道 ダンス 空手 少林寺拳法 など

2. 実証内容と成果③

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組内容

部活動検討委員会が認可する「ジュニアユース地域クラブ」について

- 運営団体：白石町教育委員会
(事務局：新しい学校づくり課推進係)
- 実施主体：各々の認可された地域クラブ

【目的とねらい】

- (1) 中学生の活動の場の確保
- (2) 地域クラブ活動の指導体制づくり …休日の地域移行に備えて
- (3) 繼続して活動を希望する生徒の「受け皿」つくり
- (4) 運営団体、実施主体の明確化

【活動計画】

- (1) 活動期間 令和6年1月認可された日～令和7年3月31日（月）
- (2) 活動場所 中学生の活動は、主に中学校施設（体育館、運動場、テニスコート）

【準備内容】…申請書類関係一覧

- (1) ジュニアユース地域クラブ登録書
- (2) 「クラブ規約」「規則」の制定
- (3) ジュニアユース地域クラブ登録名簿
- (4) 連絡体制及び支援体制（保護者会）一覧

【留意事項】

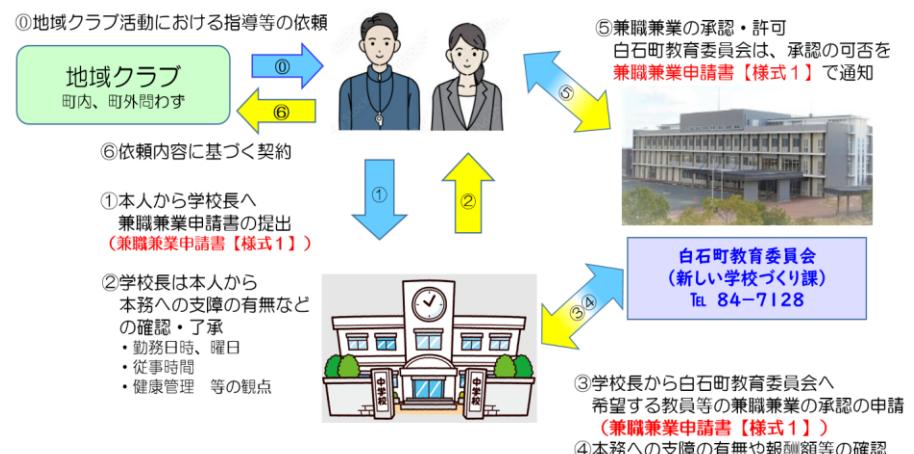
- (1) 活動日や時間、休養日の設定については、『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』（令和4年1月27日スポーツ庁・文化庁発出）「Ⅱ 新たな地域クラブ活動」を遵守していること。
- (2) 新たに申請するクラブは、暫定的な地域クラブ活動と位置付けるので、期間中の大会等への参加は、従来の部活動（チーム登録）のまます。詳細については、各大会の要項に従って参加する。
- (3) 近隣市町在住の中学生から参加希望があった場合は、その都度、確認する。
- (4) 地域クラブで活動する生徒及び指導者は「スポーツ安全保険」に加入する。

教職員の指導・参加について

【教職員の指導・参加について確認】

1. 希望する教職員の指導・参加を認める。
ただし、教職員の参加（平日、休日ともに）は「部活動」と位置付ける。
2. 教職員の「兼職兼業申請」について、佐賀県規則に準ずる。
3. 「特殊業務手当」の取り扱いは、今後、検討課題とする。

教師が兼職兼業の承認をうけるためのプロセス



白石町地域クラブ活動の基本方針

(<https://x.gd/VzIvC>)

2. 実証内容と成果④

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組内容

●白石町ジュニアユース地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技 バスケットボール バレー ボール 卓球 ブラスバンド
運営団体名	白石町ジュニアユース地域クラブ
期間と日数	【白石アスリートクラブ】 4月1日～3月31日 月20回程度 【U-15白石バスケットボールクラブ】 12月1日～3月31日 月10回程度 【U-15白石バレー ボールクラブ】 12月1日～3月31日 月12回程 【白石 卓球クラブ】 7月1日～3月31日 月12回程
指導者の主な属性	地域指導者（白石町教育委員会委嘱）
活動場所	屋外：陸上競技：白石中学校運動場 屋内：白石中学校体育館 町内社会体育館 ブラスバンド部：白石町総合センター
1人あたりの参加会費等（年・月額）	白石アスリートクラブ 2,000円/月 バスケットボールクラブ 1,200円/月 バレー ボールクラブ 0円/月 卓球クラブ 0円/月
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

運営団体創設 構想



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- コーディネーター（教育委員会）及び全体事務局
役割：地域クラブ全体の事務連絡や連絡調整及び施設予約、地域クラブの認定、指導者支援などを行う。
- 主となる地域指導者（各クラブ毎）
役割：活動計画及び技術指導の中心となって活動する。部活動顧問、保護者との連絡調整を行う。
- 運営補助者（各クラブ毎）
役割：保護者代表が連絡調整、会費徴収などの事務的業務を行う。

2. 実証内容と成果⑤

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



- 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

地域クラブの活動について

部活動

曜日	月	火	水	木	金	土、日
部活	○	○	休	○	○	○休

地域クラブ活動

曜日	月	火	水	木	金	土、日
地域	休	○	○	休	○	○休

原則、土日の
一日は休み

部活動と地域クラブ活動 併用型

時間	曜日	月	火	水	木	金	土、日
16:00～ 18:00	部活	○	休	休	○	休	休
19:00～ 21:00	地域	休	○	休	休	○	○休

指導者の裁量に
より、土日活動可

(5) 適切な休養日等の設定 *ガイドラインより

エ 休養日及び活動時間等の設定については、地域や学校の実態を踏まえた工夫として、定期試験前後の一定期間等、各部共通、学校全体、市区町村共通の休養日を設けることや、週間、月間、年間単位での活動頻度・時間の目安を定めることも考えられる。

2. 実証内容と成果⑥

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組内容

白石地域指導者の募集について

1. 目的

中学校部活動及び地域クラブ活動において、活動の充実を図るため地域から文化・スポーツ分野における専門的な技術指導力を備えた適切な指導者を配置し、生徒が文化・スポーツに親しむとともに、健全な人格の形成を図る。

2. 内容

専門的な技術指導ができる教員の不足等の現状を踏まえ、生徒が文化芸術活動及びスポーツ活動に親しむ資質や能力、体力の向上を図るために、より高い技術的指導力を有する地域の文化・スポーツ人材を積極的に活用する。

3. 資格

指導者は、当該種目の実技指導について堪能であり、かつ、指導者としてふさわしいと白石町教育委員会並びに学校長が判断した者とする。

4. 実施期間

実施期間は、委嘱をした日から、

令和7年3月31日までとする。

5. 傷害保険

地域指導者の保険加入費（1,850円/人）は町教育委員会が負担する。

6. 資格取得助成について

JSPD 公認スポーツ指導者資格（スタートコーチ）の取得に係る受講料、登録費の全額を助成する。

取組内容

地域指導者登録状況

種目	職業	資格
バスケットボール	団体職員	公認E級コーチ
	消防士	公認E級コーチ
バレー ボール	看護師	ジュニア バレー ボール コーチ
	会社員	ジュニア バレー ボール コーチ
卓球	会社員	無
	会社員	公認審判員
	栄養士	スタートコーチ
ソフト テニス	農業	外部指導者登録
	公務員	無
サッカー	公務員	公認C級コーチ
	会社員	無
軟式野球	自営業	公認トレーナー
	保育士	レクインストラクター
バドミントン	元教員	ジュニアコーチ 1
	元教員	教員免許
陸上競技	自営業	ジュニアコーチ 1
	元教員	中級パラスポーツ 指導員
アダプティッド スポーツ	元教員	初級パラスポーツ 指導員
	会社員	

募集・公募



指導者の応募資格は、以下の項目に1つ以上に該当し指導を希望する方とします。

- (1) スポーツ指導及び文化・芸術活動に熱意を持っていること
- (2) スポーツ指導及び文化・芸術活動に関する理論的な指導ができること
- (3) 日本スポーツ協会公認の指導者
- (4) 体育・スポーツ及び文化・芸術活動に関する学識経験者
- (5) 白石町スポーツ協会関係団体、白石町文化連盟関係団体、その他の社会教育団体等の推薦を受けた者



2. 実証内容と成果⑦

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

特色ある部活動 実践報告（概要）

1 学校における現状と設置の理由

●取組の成果、特に工夫した点等

本町では、令和6年度4月に町内の3中学校を統合再編し、新設白石中学校が開校した。この契機に中学校と地域が連携した部活動や地域展開・地域連携の実証事業に取り組んでいる。

開校時、全校生徒550人。そのうち特別支援学級在籍生徒は49人の状況である。

スポーツ庁が示すガイドラインでは、「運動、歌や楽器、絵を描くことなどが苦手な生徒や障害のある生徒が参加しやすいよう、スポーツ・文化芸術等に親しむことを重視し、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることや、過度な負担とならないよう活動時間を短くするなどの工夫や配慮をする」ことが述べられている。この趣旨に則り、運動をすることや他者との交流が苦手な生徒、個々に特性を持つ生徒も参加しやすい環境づくりの一環として「アダプテッドスポーツ部」を開設した。

アダプテッドスポーツ部 取組内容

2 活動の内容

- (1) 活動日 毎週木曜日 *夏季休業中火・木曜日に実施
- (2) 活動場所 学校内中庭（人工芝スペース）や多目的教室
- (3) 入部者 2年…1名 1年…7名 特別支援学級在籍生徒3名
- (4) 活動内容 ボッチャ、モルック、フリスビー、ソーシャルスキルトレーニング他
- (5) 交流活動 ①近接市町及び町内ボッチャ大会への参加
②バドミントンサークル（中学生）との交流
- (6) 指導者 白石町パラスポーツ協会指導員 スポーツ推進委員 退職教員 等
- (7) 入部動機
 - ・競い合うスポーツは苦手だから
 - ・楽しむ活動をしたいと思ったから
 - ・小学生の時に教えてもらったボッチャができるから
 - ・いろんな人とふれあうことができそうだから
 - ・ほめることから始める。「見守り活動」を中心に支援する。
 - ・「自己決定」の機会を重んじる。・担任教員と情報共有を図る。
 - ・活動内容は生徒の意見を優先する。
- (8) 配慮事項



2. 実証内容と成果⑧

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

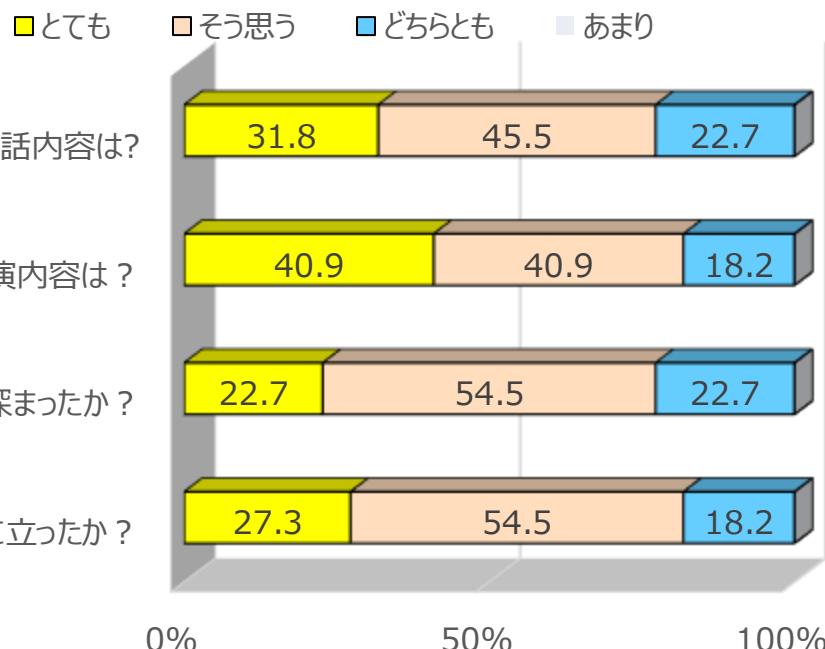
取組内容

1 目的

今後の部活動の地域展開・地域連携のあり方に関する研究と研修の一環として、学校教育あるいは青少年スポーツ活動の関係者が一堂に会し、各々の立場で連携・協力し、望ましい持続可能な部活動やジュニアユーススポーツ活動の環境と組織の在り方について再考する機会とする。

2 主 催 白石町教育委員会 白石町部活動検討委員会

ジュニアユーススポーツ推進研修会事後アンケート



地域スポーツクラブ活動体制整備事業 主催:白石町教育委員会

ジュニアユース スポーツ推進研修会

学校教育あるいは青少年スポーツ活動関係者が、それぞれの立場で連携・協力し、子供たちにとって望ましい持続可能なジュニアユーススポーツ活動の環境整備と組織づくりについて深堀りします。

日時 *開場 18時30分～
令和7年2月18日(火) 19時00分～20時50分

会場 福富ゆうあい館 ホール 佐賀県杵島郡白石町大字福富 3535 番地

対象

- (1) 佐賀県内及び白石町内の部活動を指導する教職員
- (2) 白石町地域指導者、地域クラブ指導者及び保護者
- (3) 各種団体関係者 *県、近隣市町を含む
スポーツ協会、スポーツ少年団及び総合型地域スポーツクラブ関係者
教育行政関係者 小中学校PTA関係者
- (4) その他、中学校部活動指導やジュニアユーススポーツ活動に関心のある方
☆講話「白石町における部活動地域展開を考える」
～ジュニアユーススポーツ推進の展望～
白石町部活動検討委員会 委員長 堤 王宏 氏

内容

- ☆講演「私たちは部活動改革の先に何を見出すのか」
～スポーツ少年団を核とした総合型クラブの活動を通して～
NPO 法人新町スポーツクラブ 理事長 小出 利一 氏

スポーツ庁 地域スポーツクラブ活動アドバイザー
1997年に日本体育協会（当時）からスポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブの地区指定を受け、2000年11月に群馬県初の総合型地域スポーツクラブとして新町スポーツクラブを開設

QRコード QRコードからお申込みください。
<https://x.gd/Bx5Hv>

お問い合わせ先
主 催 白石町教育委員会 新しい学校づくり課 TEL 0952 84-7128
白石町教育委員会 白石町部活動検討委員会




2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年

部活動の在り方
に関する協議

現状の把握と今後
の展開の確認

令和4年

部活動検討委
員会の開催

令和6年

活動の場の確保
地域クラブの体制
整備

令和7年

総合型地域スポーツ
クラブの設立

令和8年～

地域クラブ活動の
拡大
(休日完全展開)

令和2～3年

- 町内3中学校の統合再編を控え、部活動の再編と地域展開について検討
- 白石町部活動検討委員会設置要綱を策定し、部活動の現状と今後の展望について協議を開始
(児童生徒、保護者へのアンケートの実施)

【令和4年】

- 白石町部活動検討委員会の開催
 - ・競技別検討部会を併せて実施し、各競技における現状と課題を整理。

【令和5年】

- 拠点校部活動・合同部活動の実施
 - ・新設中学校への入学を見据え、3中学校の新入生を対象に、希望に応じて町内の他の中学校部活動で活動ができる体制を構築

○地域クラブとの連携

- ・中学生が活動できる地域クラブと連携し、子どもたちが継続してスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保

【令和6年】

- 白石町部活動の基本方針
白石町地域クラブ活動の基本方針の策定
- ジュニアユース地域クラブの認定
- 高校と連携した部活動の実施
(ハンドボール・書道・放送)
- アダプティッドスポーツ部の立ち上げ
- 教職員の兼職兼業に関する許認可体制の整備
- ジュニアユーススポーツ推進研修会の開催

【令和7年】

- 地域クラブ運営団体として総合型地域スポーツクラブ「白石ジュニアユースアクティブクラブ（仮称）」を創設
- 【令和8年】
 - 休日部活動の完全地域展開
 - ・令和8年度の休日部活動の完全地域展開を目指し、地域クラブの運営団体としての総合型地域スポーツクラブを創設し、クラブ運営を円滑に進められるようサポート体制を整える。
 - ・児童生徒、保護者への説明を丁寧に行い、地域クラブ活動への理解を深める。
 - ・教職員への説明会を実施し、学校と地域が連携して中学生の活動をサポートする。

3.今後の方向性①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本町では、令和4年度から部活動検討委員会を開設し、これまでに11回の会議を重ね、部活動地域展開の取組について、以下の活動を展開することができた。

1. (新)「白石中学校」で開設する部活動と受け皿となる地域スポーツクラブ活動

(1) 平日、休日ともに活動する地域クラブ活動
→「白石アスリートクラブ」(陸上競技)

(2) 開設する学校部活動

令和8年度までに休日は地域展開する前提

◇令和7年度中に地域クラブ活動体制を整備
バスケットボール【男・女】 卓球【男・女】

バレーボール【男・女】 ソフトテニス【男・女】

◇令和7年度中に地域クラブ活動体制を検討
軟式野球 サッカー ソフトボール 剣道

アダプティッドスポーツ部 (モルック、ボッチャなど)

* 地域指導者による指導・支援

(3) 高校と連携した部活動

・ハンドボール ・放送 ・書道

(4) 中学生が活動できる地域クラブ

* スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ
・バドミントン・弓道・柔道・ダンス・空手 等

中学生のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保し、
新たな組織体制に基づきながらできた。

●成果の評価

- ・学校関係者、生徒及び保護者、地域住民、スポーツ関係団体関係者などの「部活動 地域展開・地域連携」に関する理解が深まりつつある。
- ・地域クラブが発足する過程で、地域指導者として協力する人材を発掘することにつながったことは大きな成果である。
- ・「指導の一貫性」や「冬季の活動時間を確保する」観点から、休日のみならず平日も、地域指導者が中心となって活動する機会が増えつつある。
- ・新たな課題解決のために、多くの情報と意見が集約され、論点整理が進んでいる。

●今後に向けて

【本事業を推進する過程での重要課題】

- (1) 部活動の受け皿となる地域スポーツクラブを総括する総合型地域スポーツクラブの運営体制の構築
- (2) ジュニアユーススポーツ推進体制の整備
- (3) 地域指導者のさらなる発掘と育成 * 教職員の「兼職兼業」整備
JSPO 公認スポーツ指導者資格の取得促進と助成
- (4) 総括コーディネーターの配置及び各種課題やトラブルに対応する組織づくり
- (5) 財源確保⇒保護者・生徒の「受益者負担」意識の醸成と一定の財源負担及び
困窮家庭の生徒支援
- (6) 活動場所の確保、用具管理の整備⇒学校体育施設、社会体育館、町公共スポーツ施設の有効活用とスマートロックなどの整備

3.今後の方向性②

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動「地域展開」の今後のスケジュール

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11~13年度
小学生数	1,054	1,008	966	898	856	807~697
中学生数	598	580	582	561	527	519~481
フェーズ						
	改革推進期間		改革実行期間（前期）		改革実行期間後期	
	新設 白石中学校開校	ジュニアユース 地域クラブ 組織体制の整備	休日部活動 全て地域展開	小中学生を中心とした 総合型地域スポーツクラブ スポーツ少年団の再編		
	国スポ・全障スポ 佐賀県開催					
	平日 部活動・地域クラブ 地域展開					
概要	地域スポーツクラブ活動体制整備事業	部活動及び 地域クラブ活動 地域展開支援	ジュニアユーススポーツ 総合型クラブ・ スポーツ少年団 組織再編	実践研究 進捗状況評価 施策への反映		
施策	・部活動検討委員会 ・競技別検討部会 ・ジュニアユーススポーツ推進研修会					
	ジュニアユース 地域クラブ認定制度 部活動・地域クラブ ガイドラインの改訂	ジュニアユース アクティブクラブ設立	【継続審議・検討】 NPO法人化・財源確保・事務局体制			
	令和8年度以降の部活動地域展開について説明 新入生の部活動及び地域クラブ活動の募集を実施					